

子ども・若者の意識と行動に 関する調査

～ 結果の概要～

報告書概要版(案)から

① 調査の概要

地域・対象：山梨県全域の12歳～30歳の男女
(令和5年4月1日現在の満年齢)

標本数：12歳～17歳(1,000人)
18歳～30歳(2,000人)の
3,000人

調査期間：令和5年6月16日～令和5年8月6日

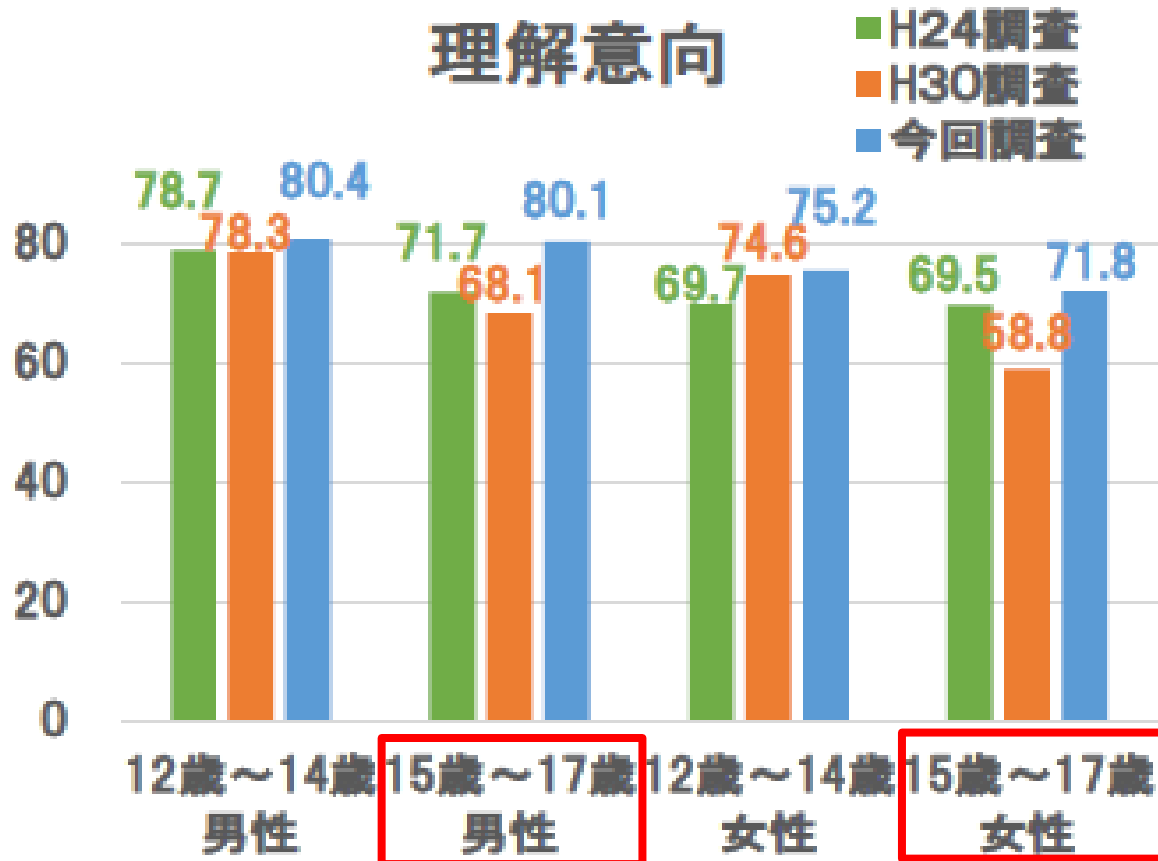
回収結果：1,831(回収率 61.0%)

②学校に

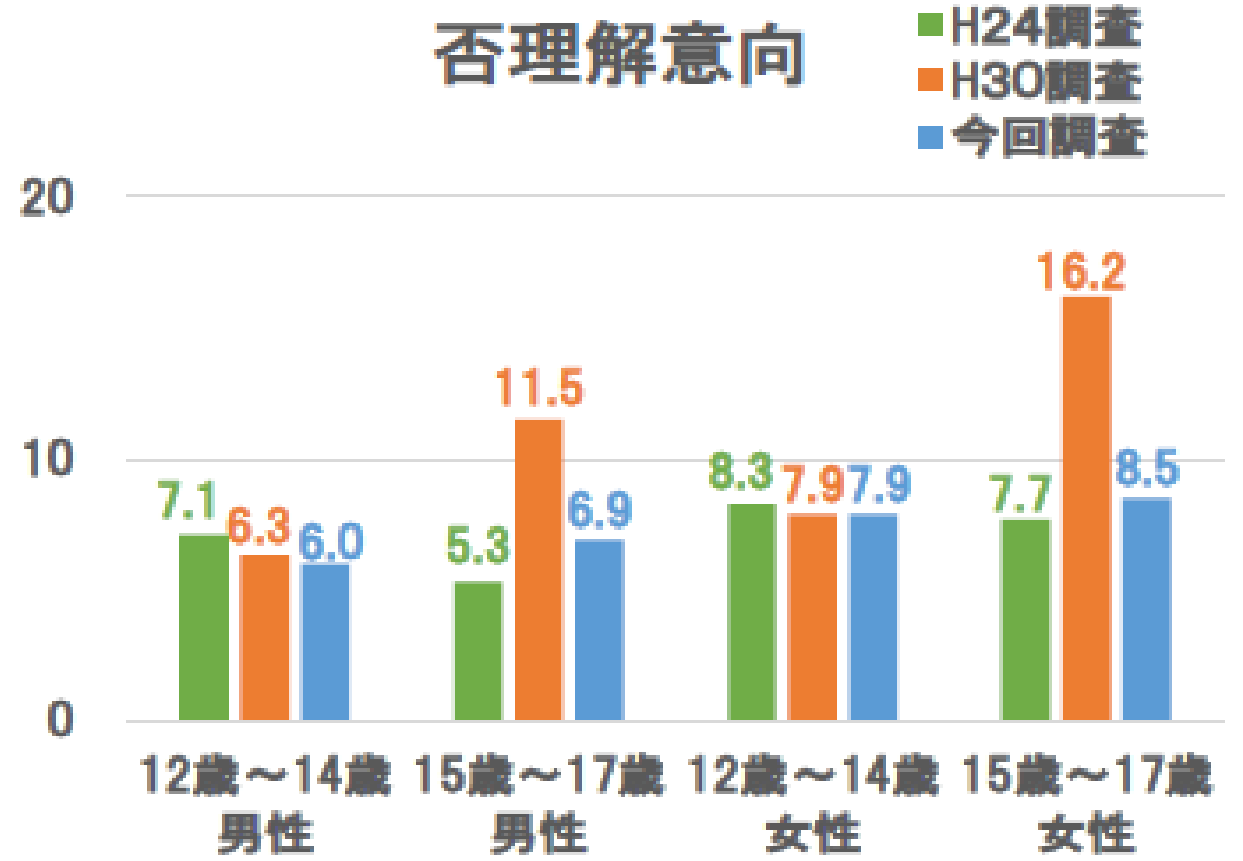
関する事項

I. 先生は、あなたのことをわかっているか

理解意向



否理解意向



前回（H30）よりも高校生の男女の理解意向の割合が高くなっている

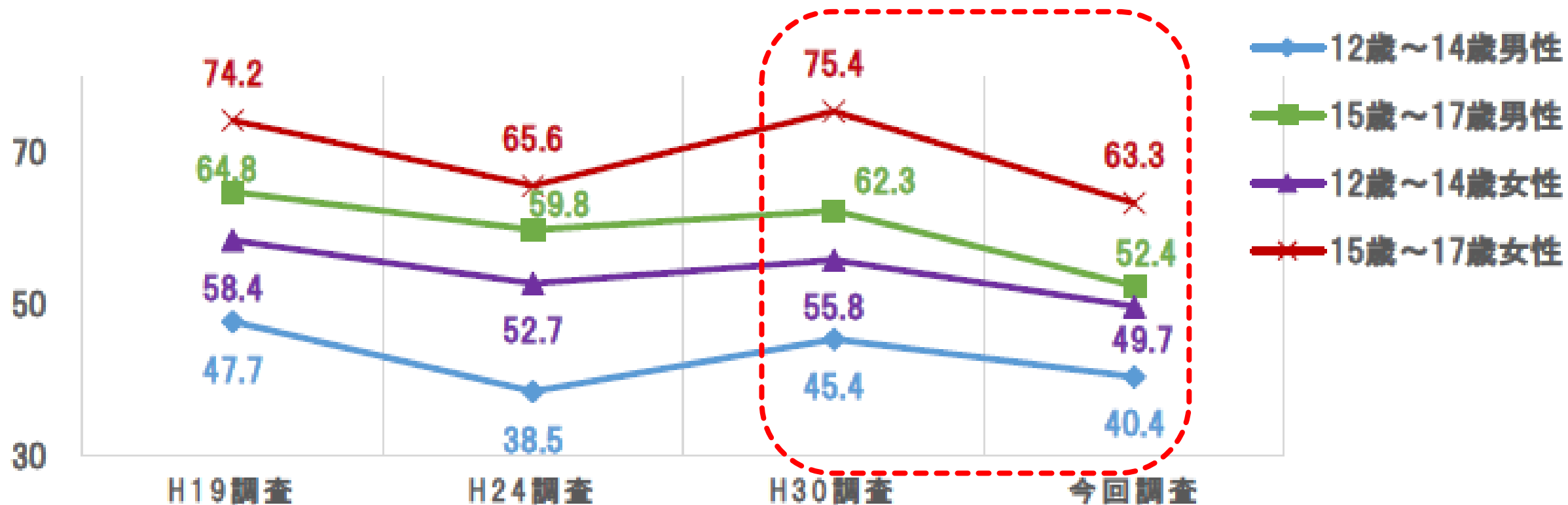
Ⅱ. 学校に行きたくないと思ったことがあるか（不登校意向 単位：％）

	いつも 思っている	思ったこと がある	思ったこと がない	不登校 意向
12歳～14歳男性	6.4	34.0	59.6	40.4
15歳～17歳男性	7.8	44.6	47.6	52.4
12歳～14歳女性	9.1	40.6	50.4	49.7
15歳～17歳女性	15.7	47.6	36.7	63.3

不登校意向

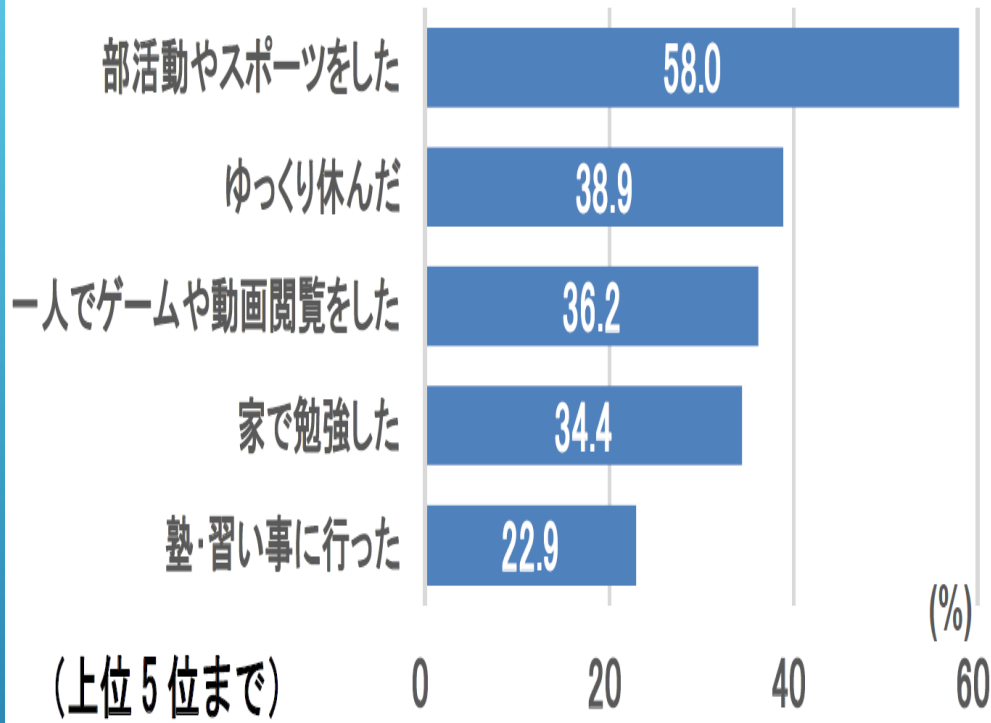
不登校意向は、男女とも、高校生（15歳～17歳）の方が約12%程高い

【「不登校意向」 過去調査との比較 男女年齢層別】 (単位:%)



前回調査（H30）よりは、
男女・中高生とも減少している

Ⅲ. 土・日曜日に、おもに何をして過ごしたか

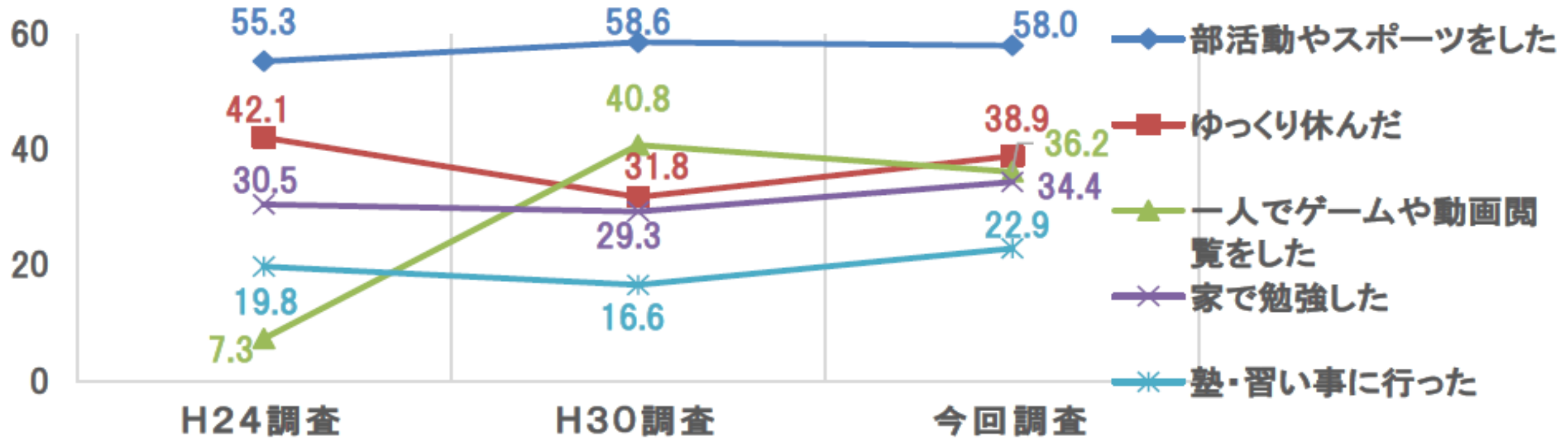


【土・日曜日に、おもに何をして過ごしたか 男女年齢層別（上位10位まで）】（単位:%）

	部活動 スポーツ	ゆっくり休 んだ	一人で ゲーム・ 動画閲覧	家で 勉強	塾 習い事	家族と 買い物	家の 手伝い	友達と外出 (ゲームセンタ ー・買い物 以外)	パソコン をした(ケ ーム・動画 閲覧以 外)	一人で家で遊 んだ (ゲームや 動画閲覧 以外)
全 体	58.0	38.9	36.2	34.4	22.9	14.3	10.7	6.4	5.9	5.7
12歳~14歳男性	61.2	33.2	39.2	36.0	34.4	6.4	7.2	4.8	10.8	4.8
15歳~17歳男性	66.7	40.3	43.3	26.8	12.1	6.9	7.4	9.5	6.9	5.6
12歳~14歳女性	55.5	38.6	34.3	42.5	29.9	20.9	13.0	3.9	3.5	5.9
15歳~17歳女性	50.0	43.1	28.6	31.9	15.7	23.0	14.9	7.7	1.6	6.5

**男女・中高生とも部活動・スポーツが1番
2番目が 中高生男子は一人でゲーム・動画閲覧
中学生女子は家で勉強
高校生女子はゆっくり休む**

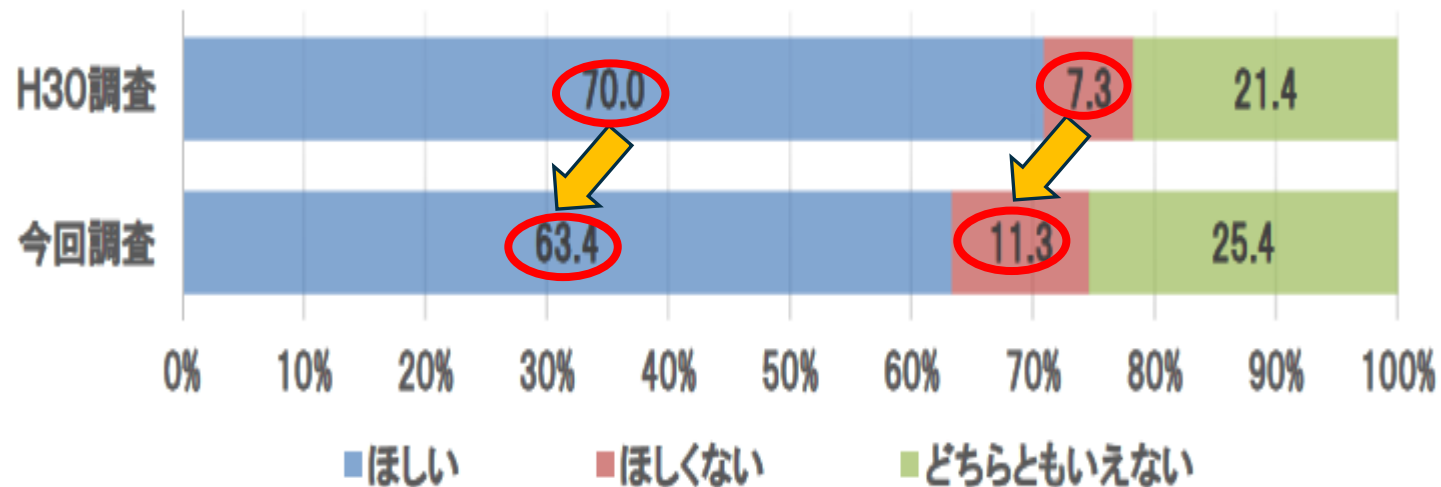
【土・日曜日に、おもに何をして過ごしたか 過去調査との比較 全体（上位5位まで）】（単位:%）



前回調査（H30）で大幅増だった一人でゲームや動画閲覧は減少。それ以外はほぼ同じか、やや増加で、中でもゆっくり休んだの割合が一番増加している。

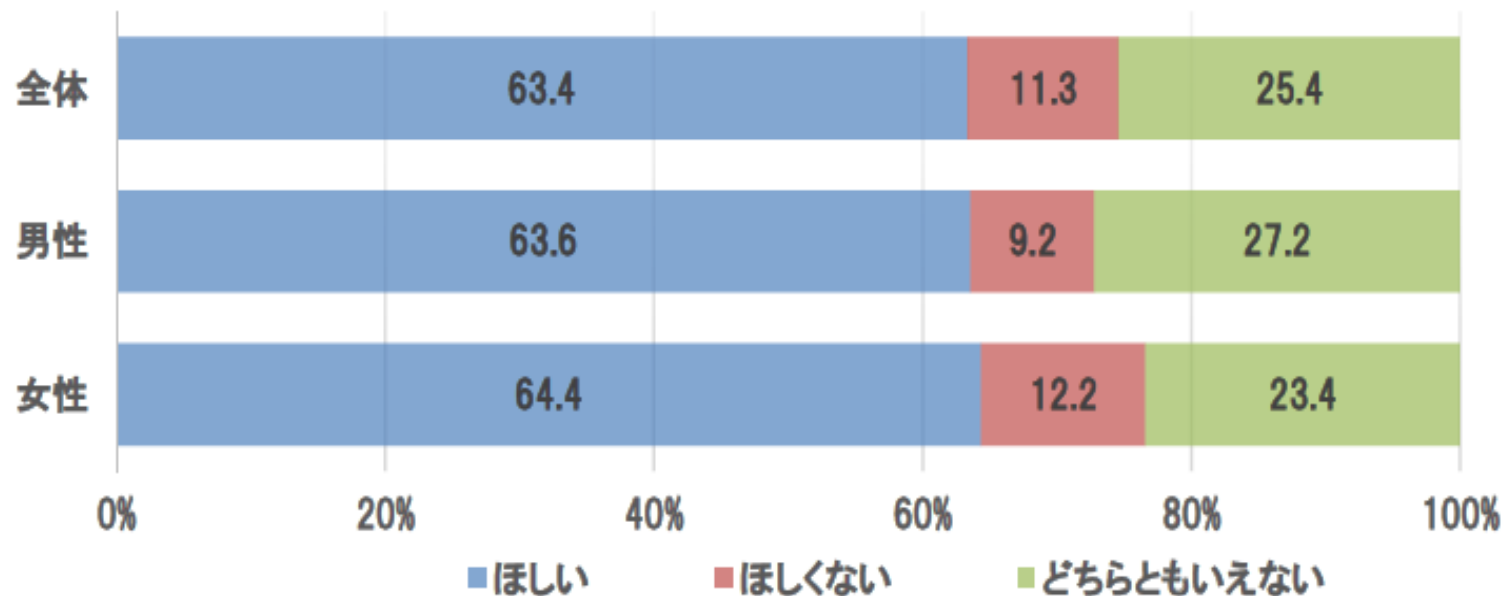
③ 将来像に 関する事項

I. 将来、子どもがほしいか



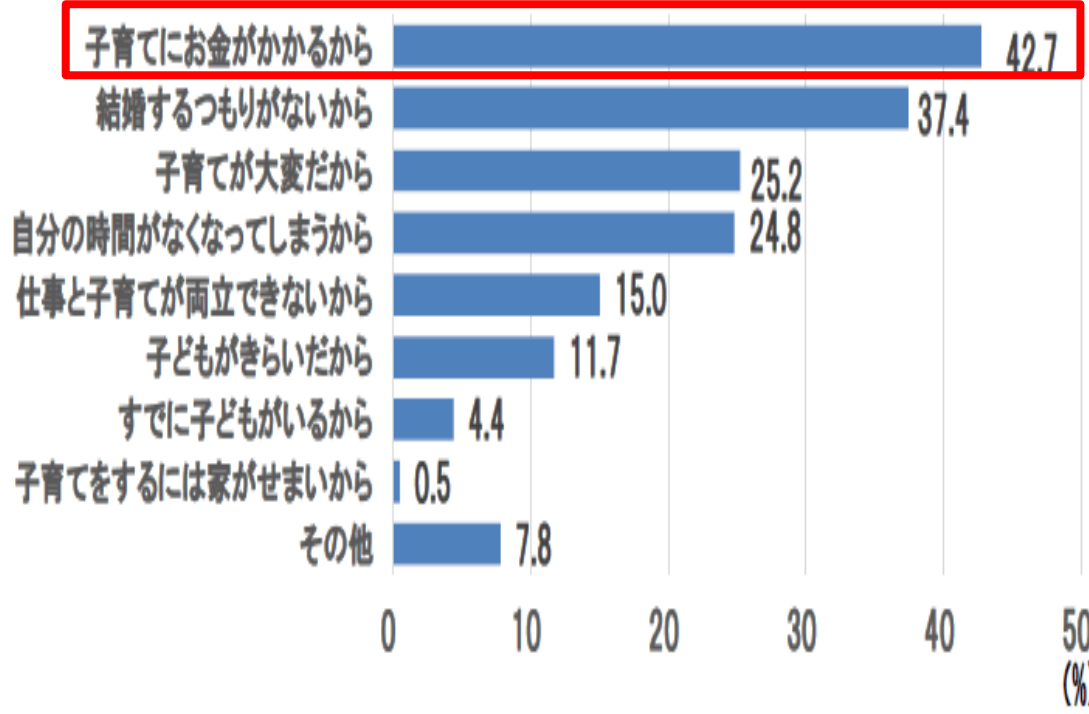
前回調査（H30）と比べ、
ほしい人の割合は減少し、
ほしくない人の割合は
増加している

今回調査

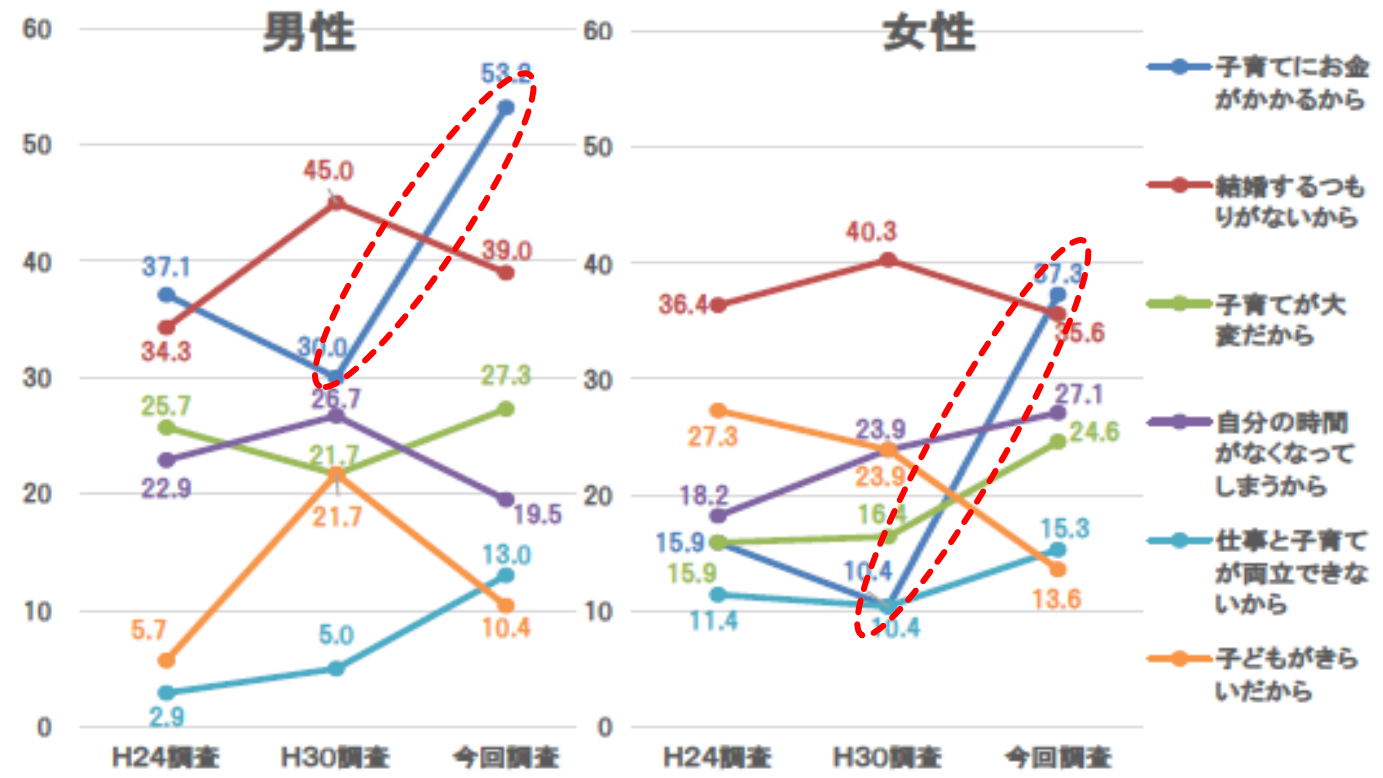


将来、子どもがほしいと
思っている男性・女性の
割合は、ほぼ同じで
約3人に2人はほしいと
思っている

II. どうして子どもがほしくないのか



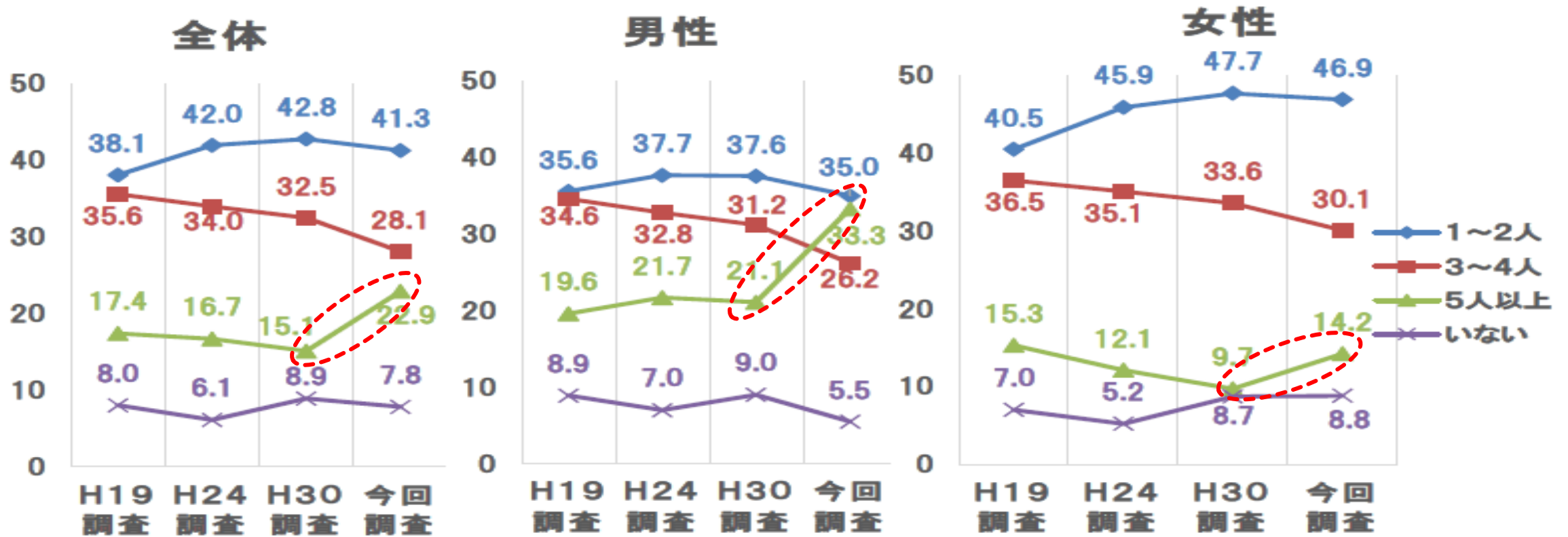
【どうして子どもがほしくないのか 過去調査との比較 男女別（上位6位まで）】（単位:%）



子どもがほしくない理由は「子育てにお金がかかるから」が1番で、男女ともに、前回調査（H30）よりも大幅に増加している

④ 家族・友人関係 に関する事項

I. 心を開いて話せる親友が何人いるか



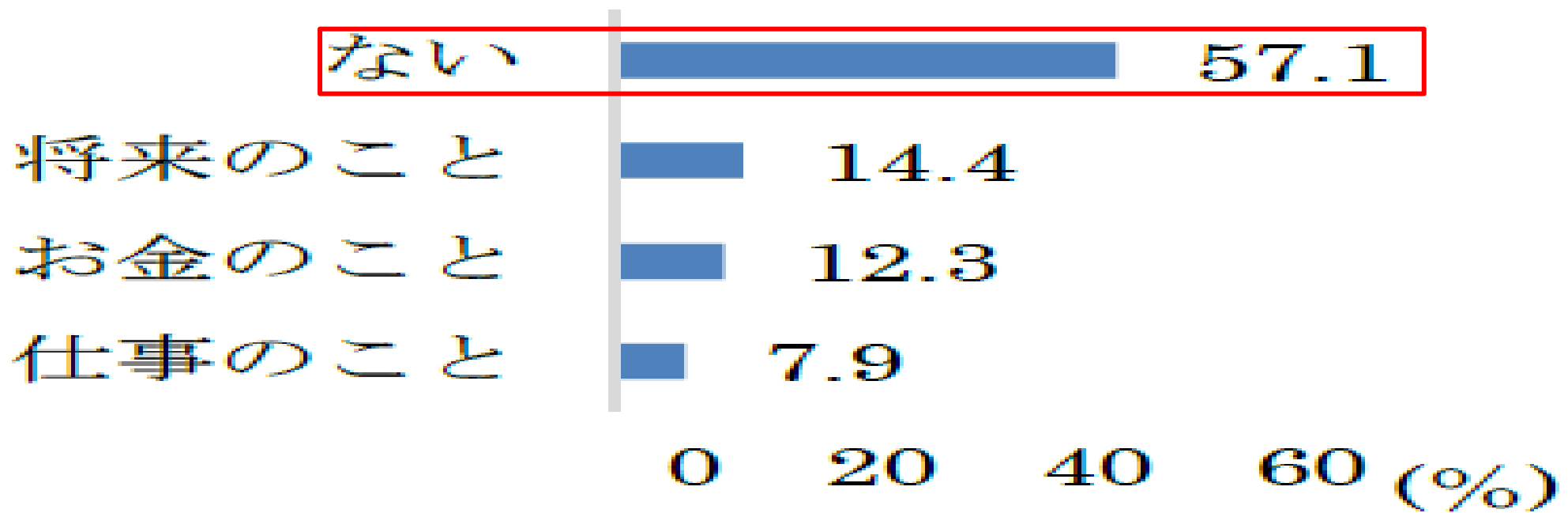
心を開いて話せる親友の数は、前回調査（H30）と比較すると「5人以上」の割合が大きく増加し、過去3回の調査と比較しても全体と男性は割合が1番高い

Ⅱ 悩み事があったとき、誰に相談するか(上位5位 単位:%)

	親友	お母さん	お父さん	同級生	恋人
H19調査	55.8	35.4	8.7	25.2	8.0
H24調査	53.0	37.3	10.1	19.7	10.6
H30調査	42.2	41.9	12.1	20.1	9.9
今回調査	50.0	46.8	13.6	10.8	8.7

1番の相談相手は、過去の調査同様「親友」である。しかし、相談相手として「お母さん」・「お父さん」が調査を行うごとに少しずつ増加している。

新Ⅲ. 新型コロナウイルス感染拡大により増した悩みは

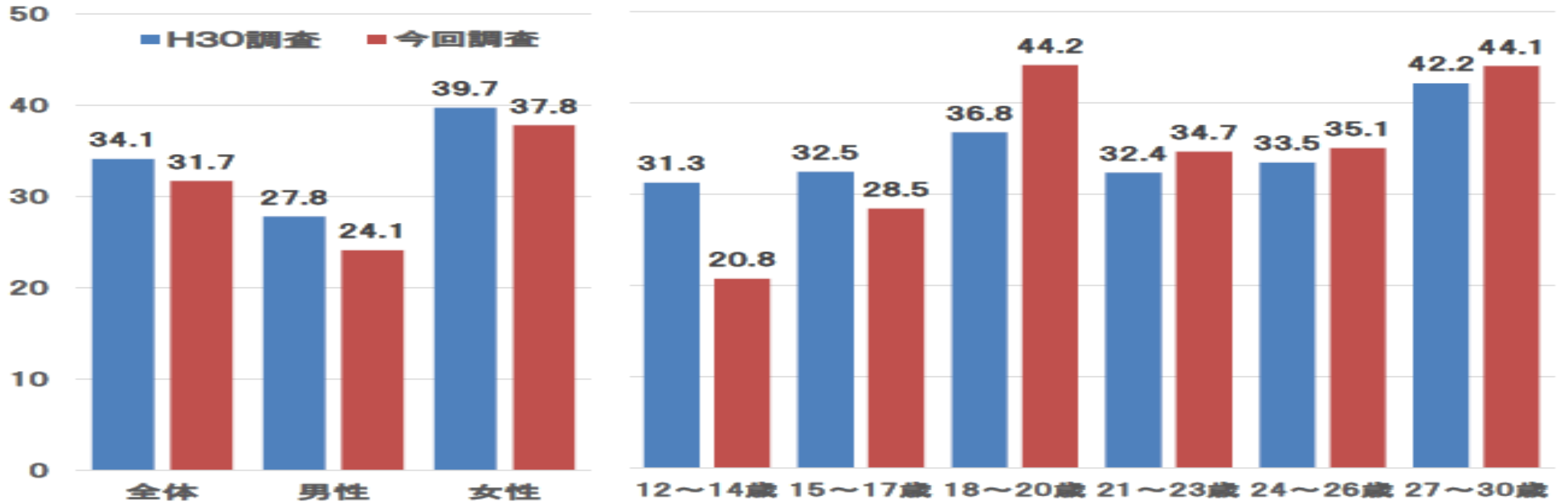


新型コロナウイルス感染拡大の影響により増した悩みは、半数以上が「ない」

※参考（「ある」と回答した年齢層の1位）

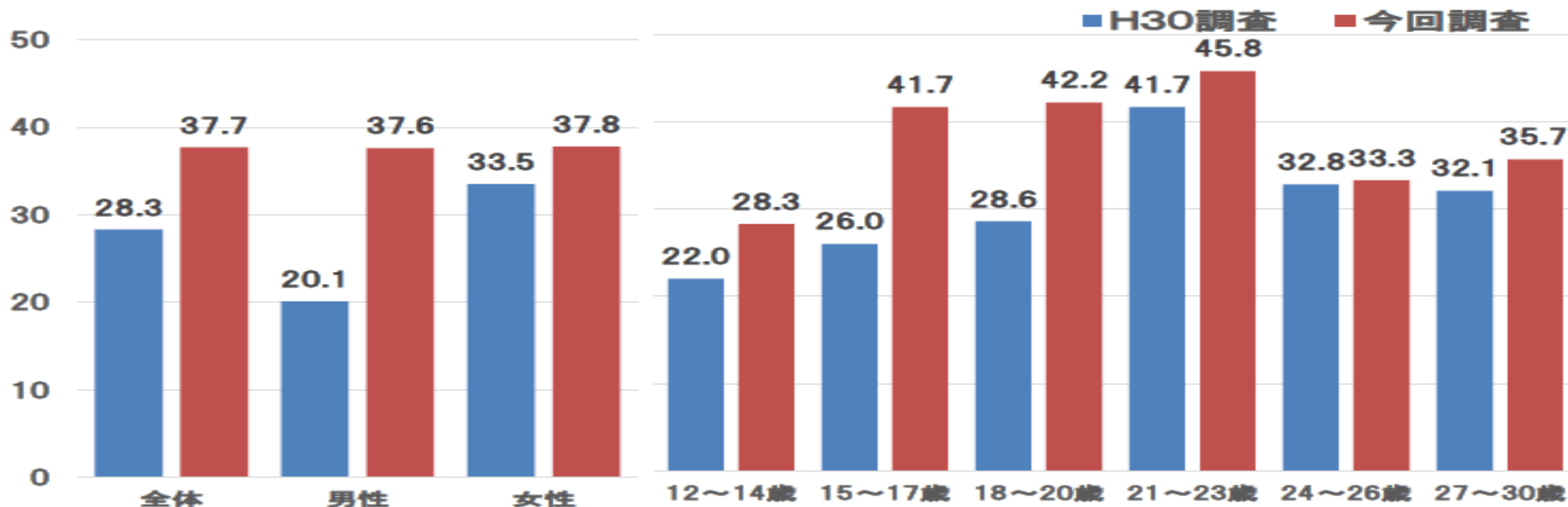
12歳～14歳（中学生）	・ ・ 勉強	21歳～23歳	・ ・ ・ 就職
15歳～17歳（高校生）	・ ・ 将来	24歳～26歳	・ ・ ・ お金
18歳～20歳	・ ・ ・ ・ ・ 将来	27歳～30歳	・ ・ ・ お金

IV. 「生きていたくない」と思ったことがあるか



「生きてたくいたくない」と思ったことがある人の割合が、
前回調査（H30）よりも男女ともに減少している。
中高校生世代（12歳～17歳）は減少しているが、18歳～30歳の
年齢層では増加している。

V. 「生きていたくない」と思った時、だれか相談したか

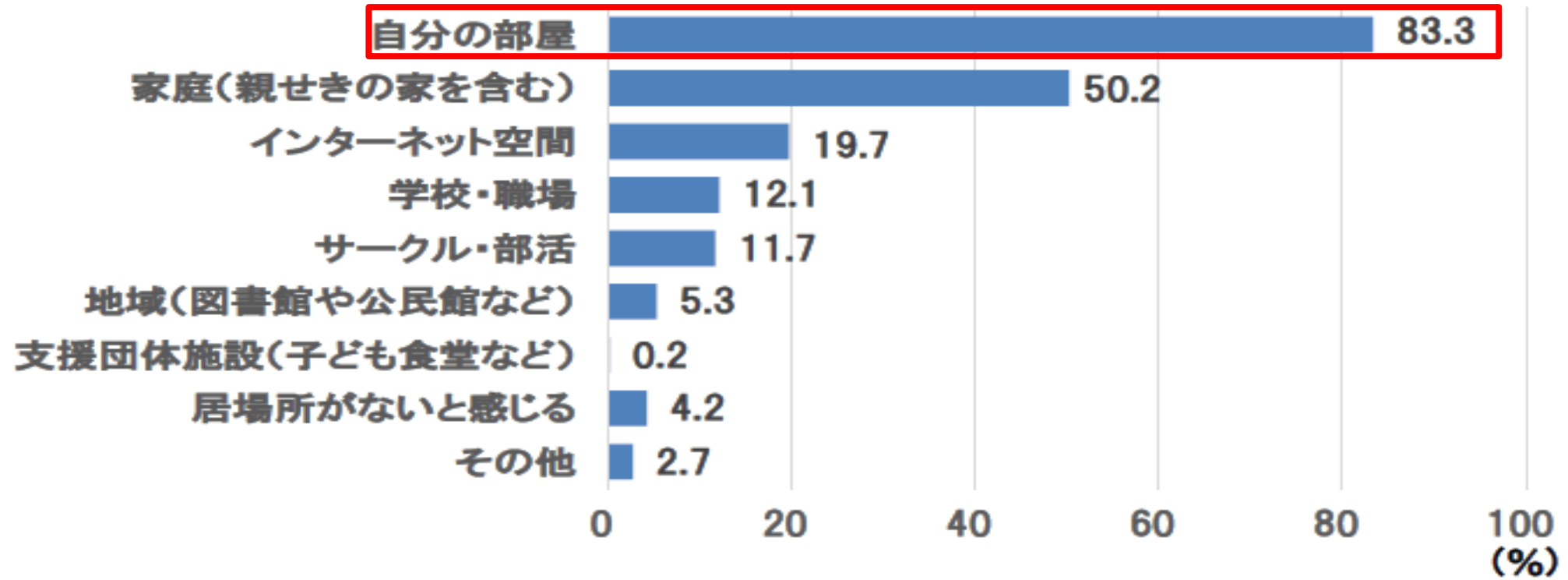


「生きていたくないと思った時、だれか相談した」という人の割合が、今回の調査では、前回調査（H30）よりも**男女と全ての年齢層で増加している**。中でも**男性、15歳～17歳（高校生）と18歳～20歳で大幅に増加している**。

新

⑤ 居場所 ・ 自己肯定感
に関する事項

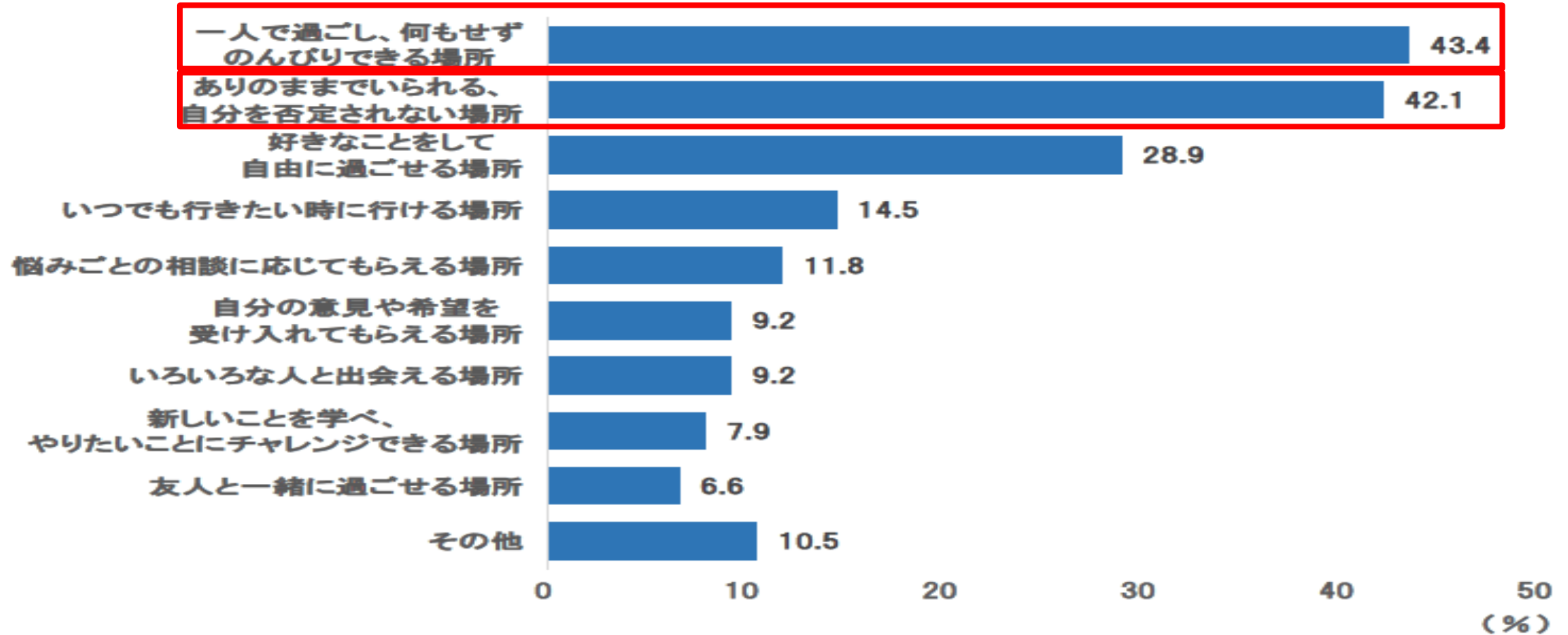
I. リラックスして落ち着いて過ごせる場所は



およそ、**5人に4人は「自分の部屋」**がリラックスして
落ち着いて過ごせる場所と回答

※男女・全年齢層でも、「自分の部屋」がリラックスできる
場所となっている割合が1番高い

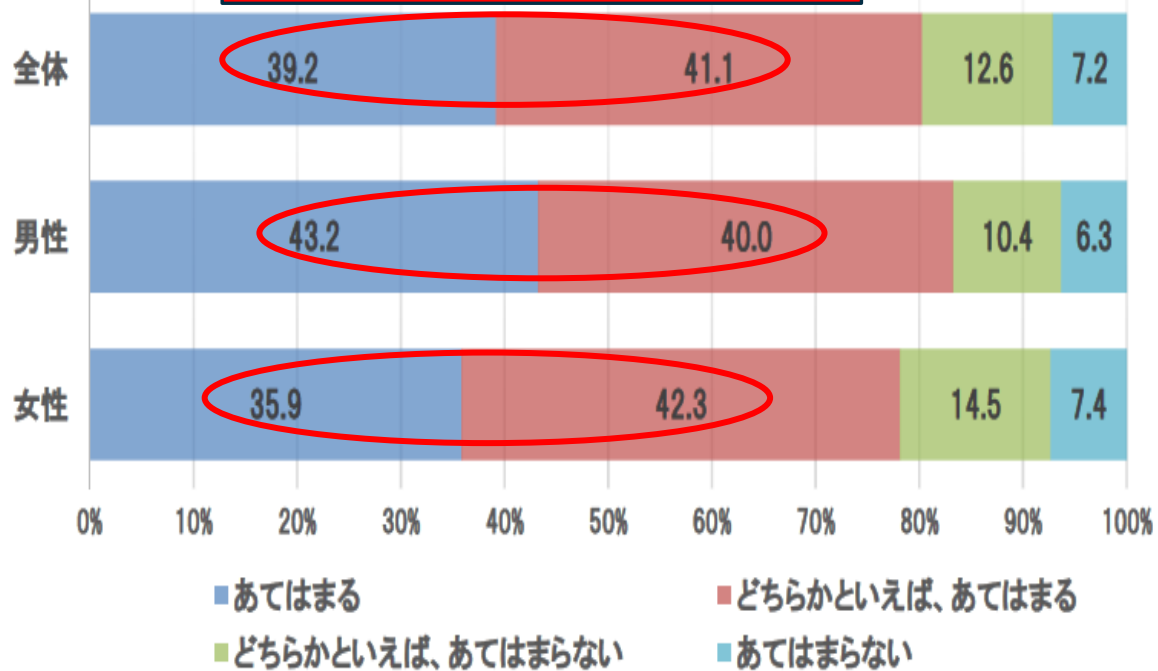
Ⅱ. 居場所がない人は、どのような場所がほしいか



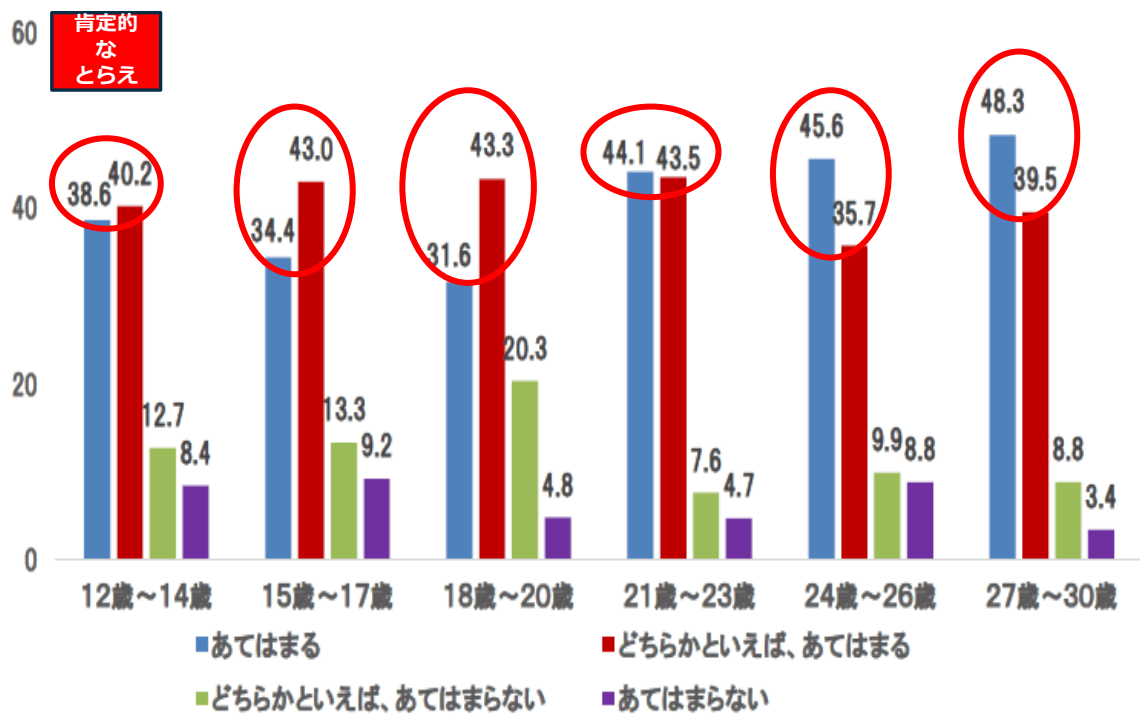
「一人で過ごし、何もせずのんびりできる場所」と「ありのままでいられる、自分を否定されない場所」が40%強と高い割合を占めている

Ⅲ. 自分にはよいところがあると思うか

肯定的にとらえ



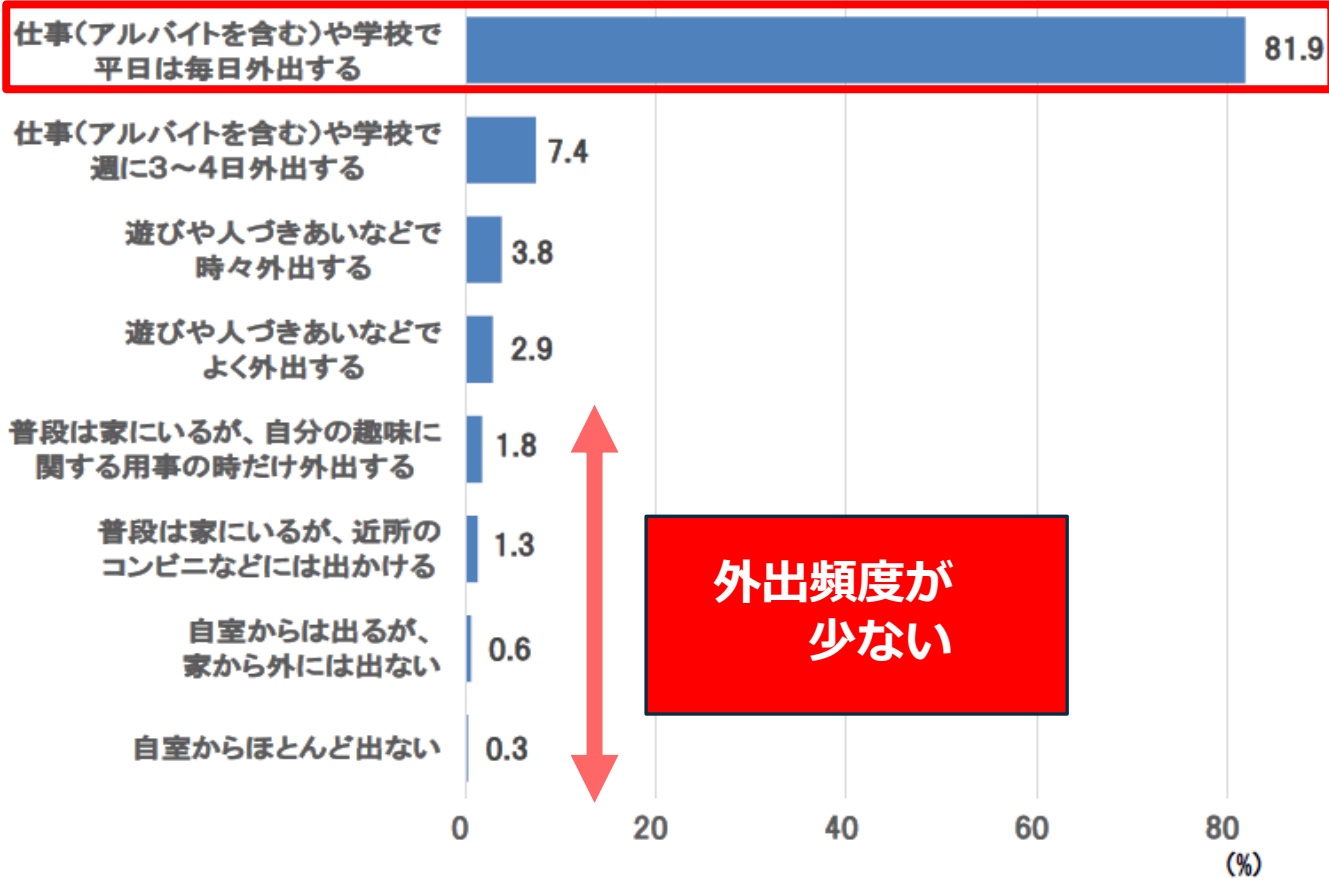
年齢層別



男女・全年齢層とも、「自分には、よいところがある」と自分を肯定的にとらえている割合が70%以上である
 12歳~20歳の年齢層よりも21歳~30歳の年齢層の方が自分を肯定的にとらえている割合が高い

⑥外出傾向に 関する事項

I. 普段どれくらい外出するか



「平日は毎日外出する」が81.9%で、およそ5人のうち4人は毎日外出している

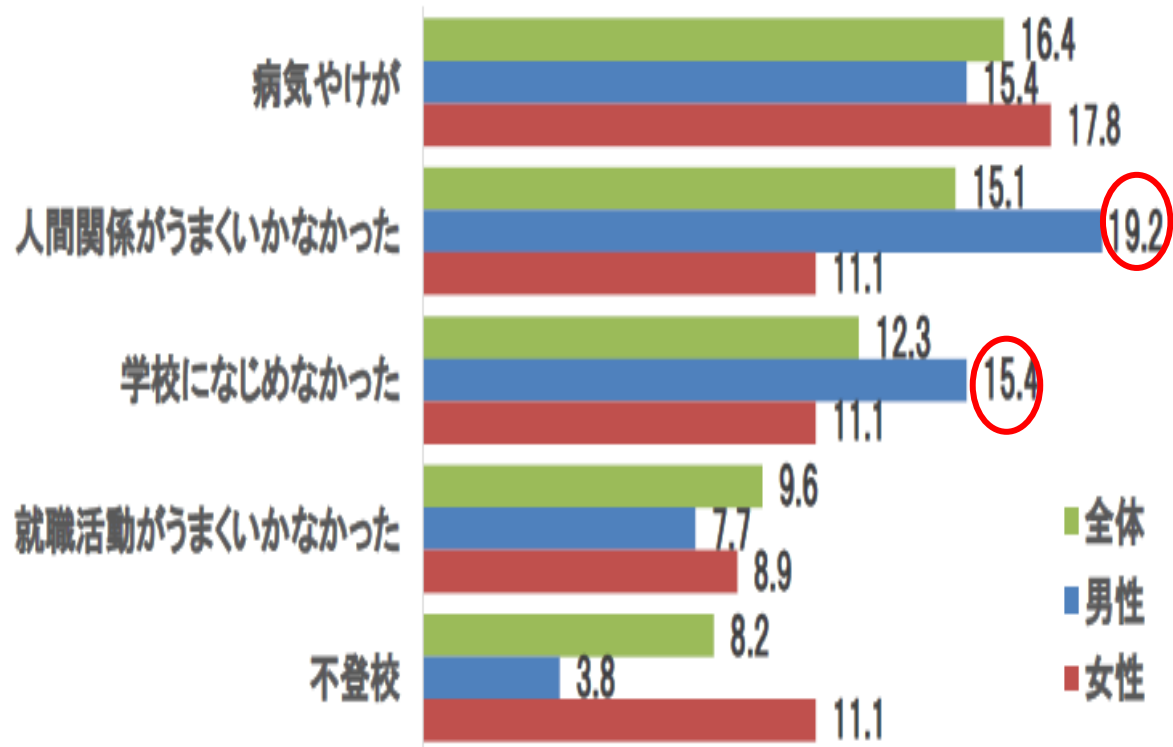
・ 前回調査と比較すると、「外出頻度が少ない群」の全体の割合は増加

・ 12歳~14歳(中学生)の割合の増加が、男女や他の年齢層より大きい

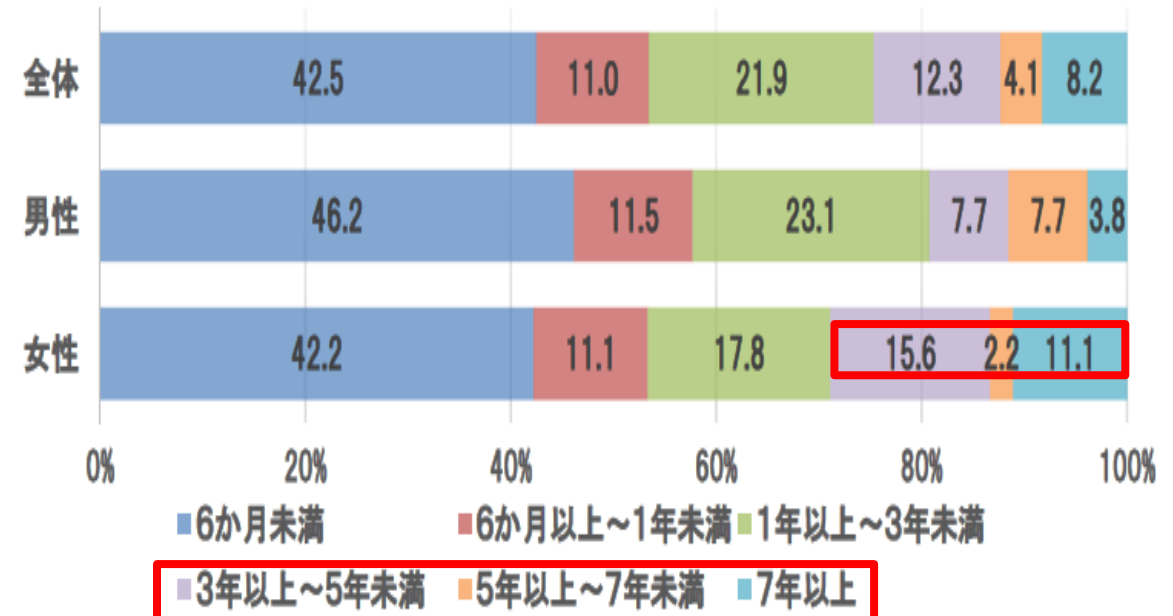
【普段どれくらい外出するか 「外出頻度が少ない群」 前回調査との比較 全体 男女別 年齢層別】 (単位:%)

	全体	男性	女性	12歳~14歳	15歳~17歳	18歳~20歳	21歳~23歳	24歳~26歳	27歳~30歳
H30調査	3.1	2.9	3.2	1.4	1.2	2.6	6.8	7.1	5.9
今回調査	4.0	3.1	4.7	5.6	2.4	1.7	5.3	5.2	4.2

Ⅱ. 外出しない状況になったきっかけは何か (上位5位まで)



Ⅲ. 外出しない状況になってどのくらい経つか

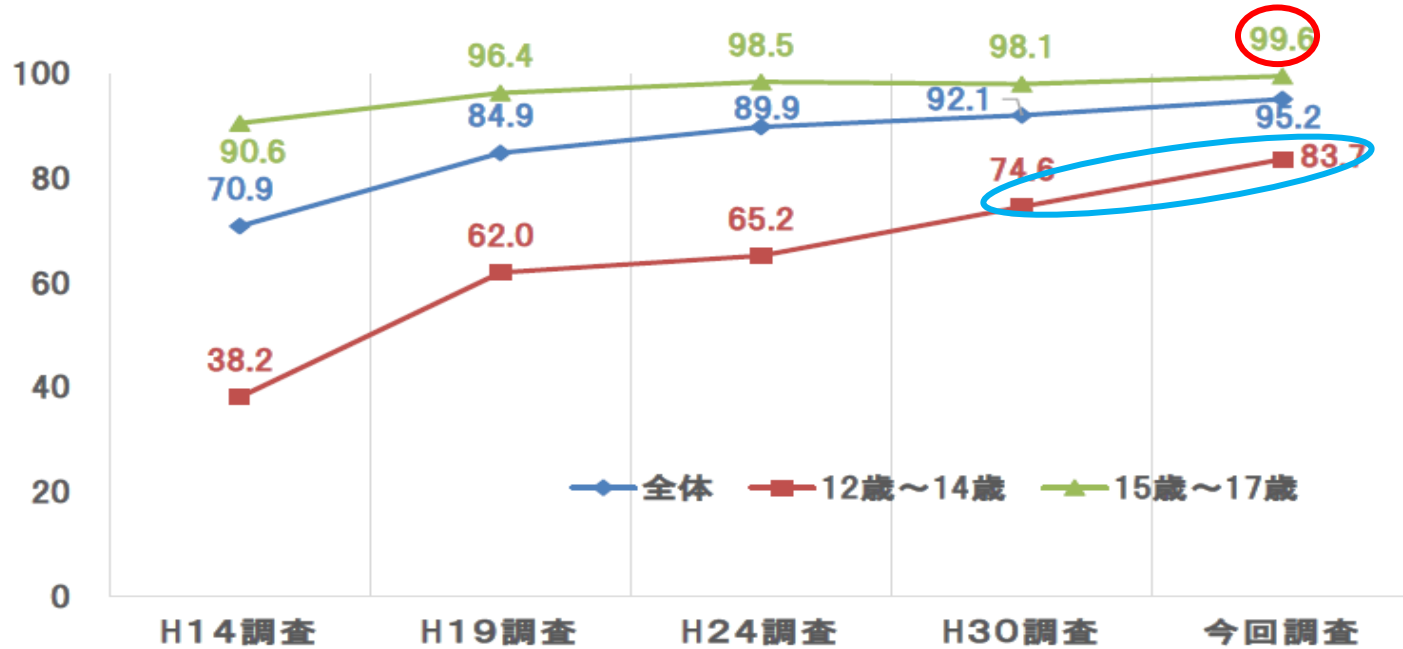


・ 女性より**男性**の方が、**対人関係**や**環境**に関わる項目の割合が高い

・ 男性より**女性**の方が、**外出しない状況期間**が長い

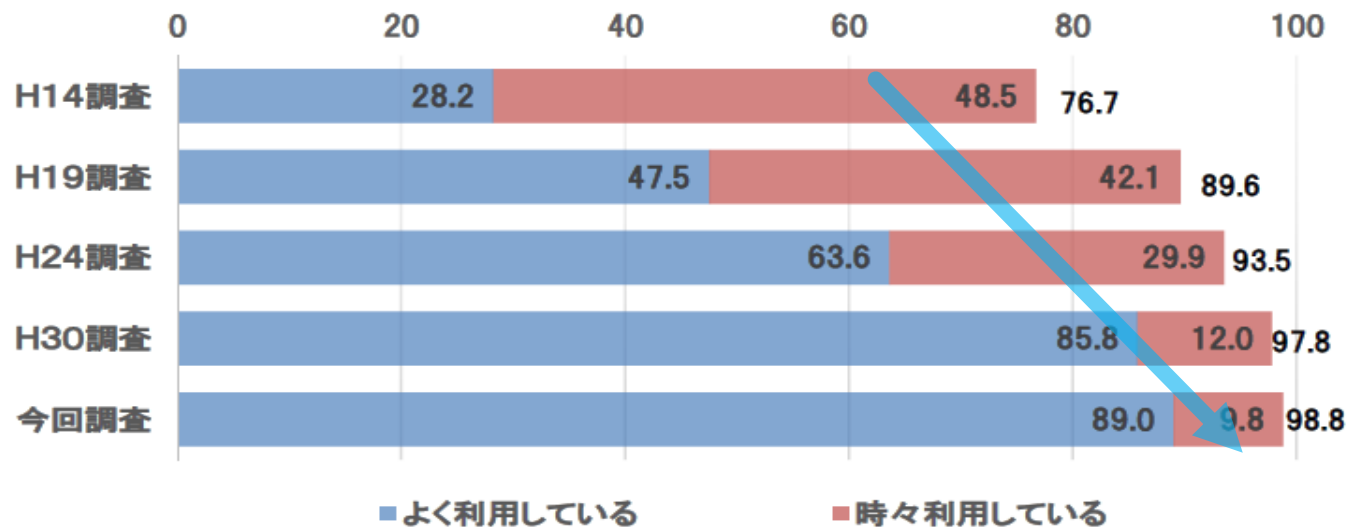
⑦ インターネット(SNS、 動画サイト、オンライン ゲームなど)の利用 実態に関する事項

I. 自分のスマートフォン・携帯電話を持っているか



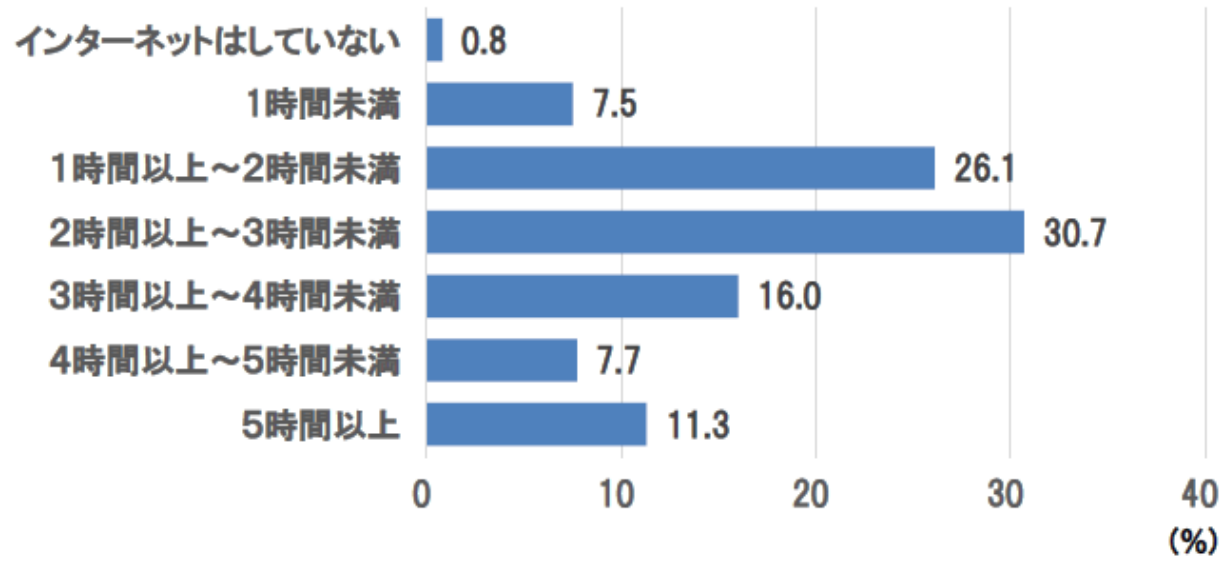
- ・ **高校生の所持率は、ほぼ100%**
- ・ **中学生は、前回調査よりもさらに増加し、およそ5人のうち4人は所持している**

II. インターネットを利用しているか

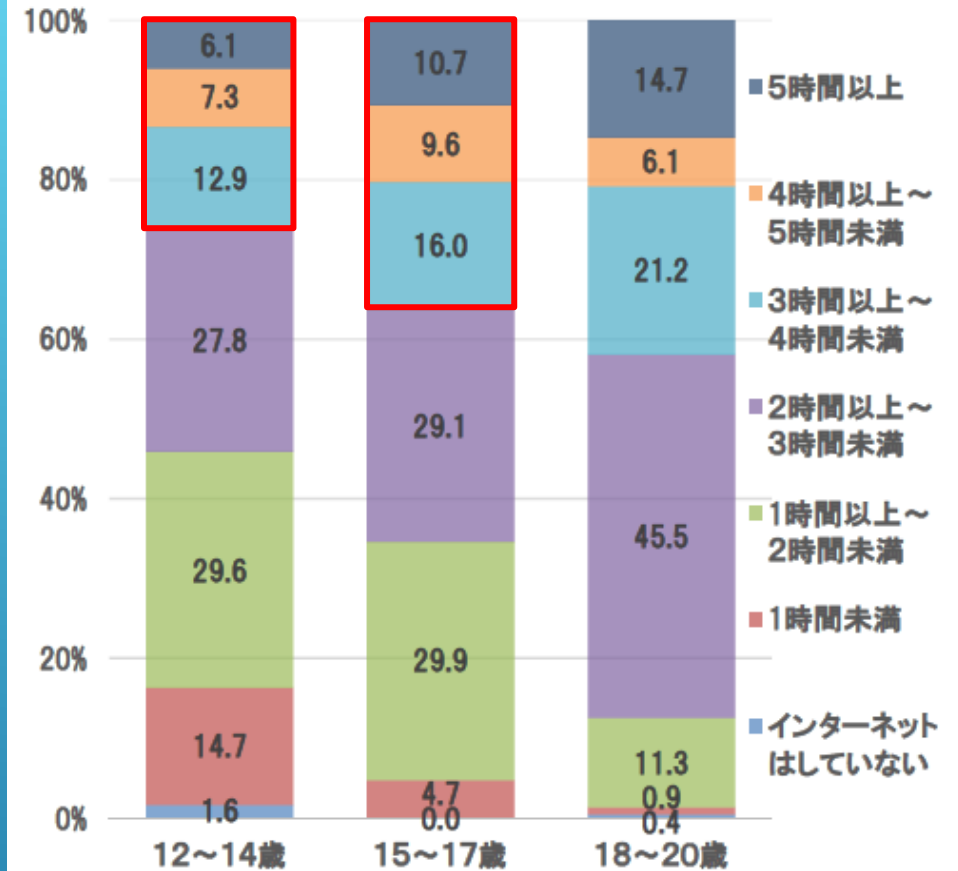


インターネットの利用は、調査を行うごとに増加している

Ⅲ. 一日どのくらいインターネットにアクセスするか (学校や仕事のある日)



【一日どのくらいインターネットにアクセスするか
年齢層別 12歳～20歳】(単位：%)



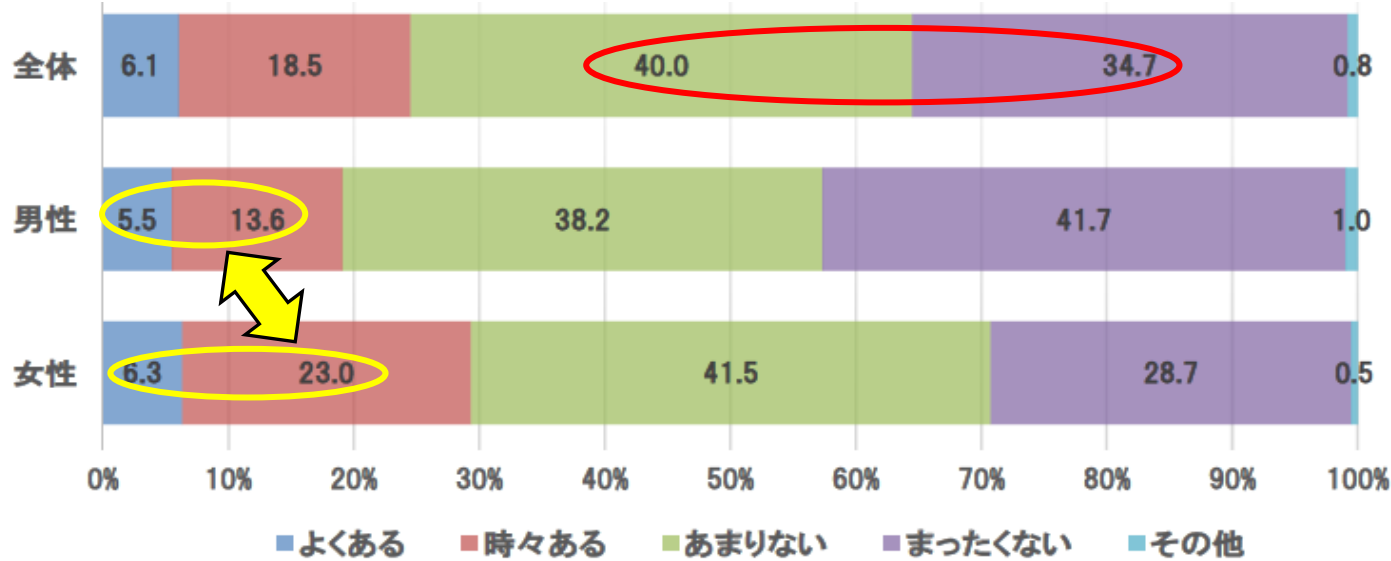
【一日どのくらいインターネットにアクセスするか 前回調査との比較 全体】(単位：%)

	していない	1時間未満	1時間以上～2時間未満	2時間以上～3時間未満	3時間以上
H30調査	2.7	22.0	25.3	33.9	15.6
今回調査	0.8	7.5	26.1	30.7	35.0

・インターネットにアクセスする時間は、**3時間以上が最も多く、前回調査よりも2倍以上**となっている

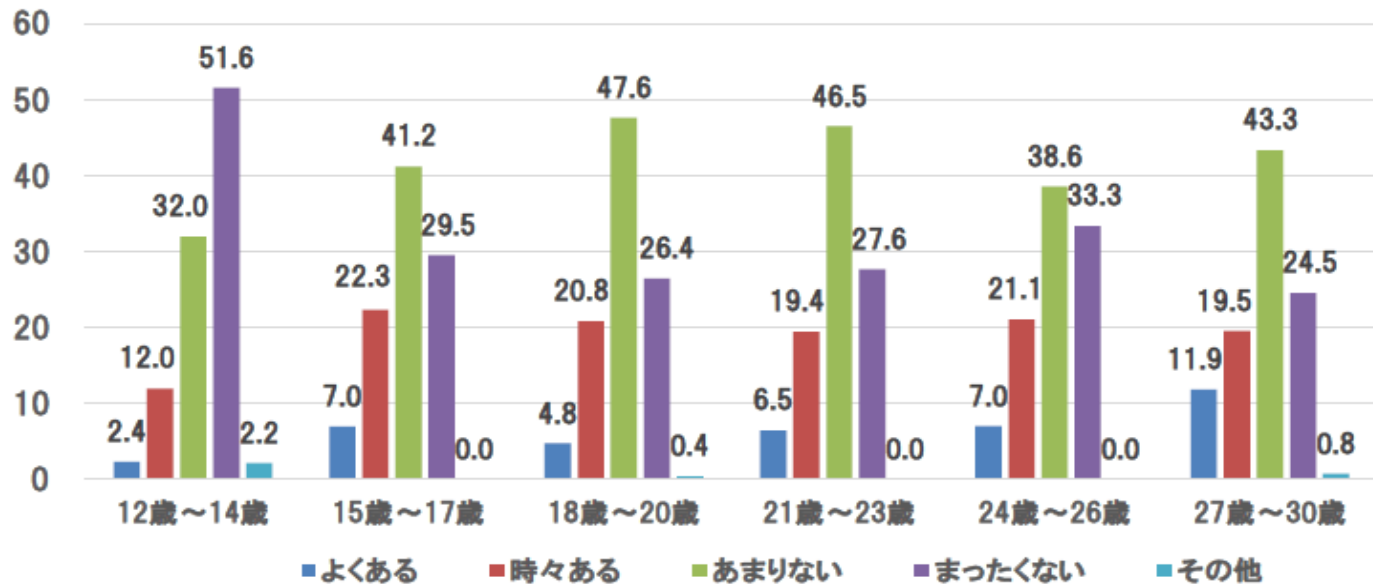
※参考・ ・中学生 26.3% (およそ4人に1人)
高校生 36.3% (およそ3人に1人)

新 IV SNS疲れを感じることもあるか



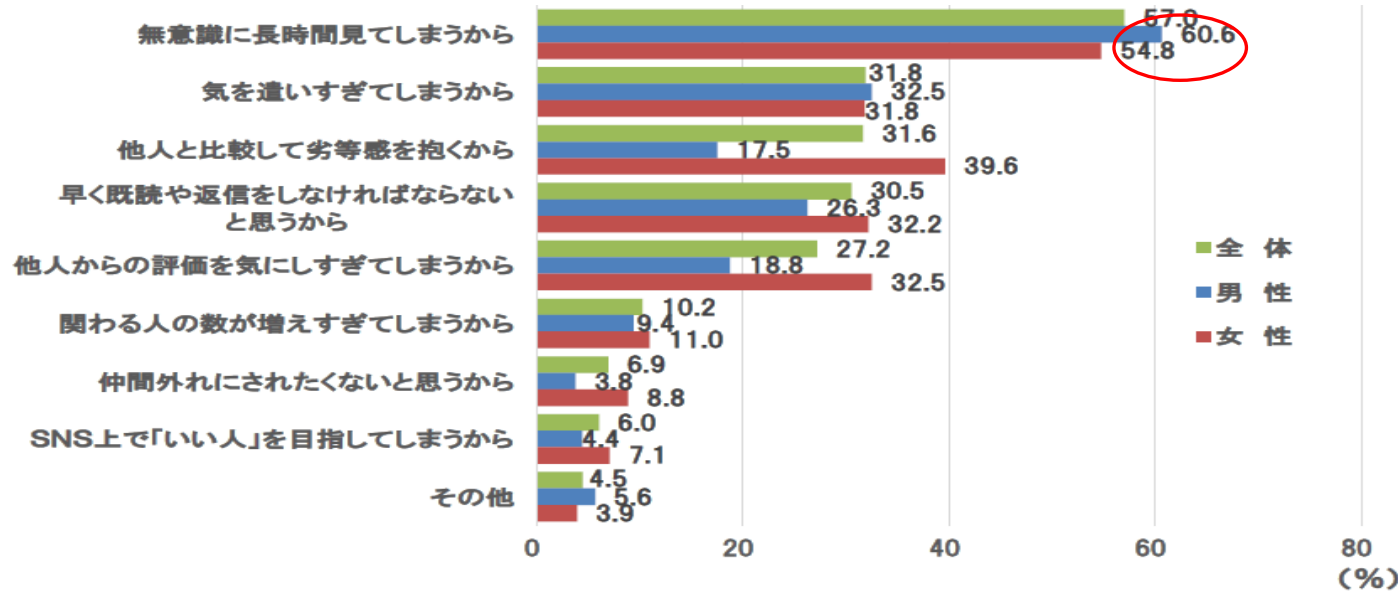
SNS疲れを感じていない人は全体で74.7%、およそ4人のうち3人は疲れを感じていない
 男性より女性の方が疲れを感じている人が多い

【SNS疲れを感じることもあるか 年齢層別】 (単位：%)



どの年齢層でも、65%以上の割合で疲れを感じては
 いないが、年齢層が上がるにつれ、疲れを感じている

新 V SNS疲れを感じる原因は何か



SNS疲れを感じる原因は男女全ての年齢層で「無意識に長時間見てしまうから」が最も多い

【SNS疲れを感じる原因は何か 年齢層別】 (単位：%)

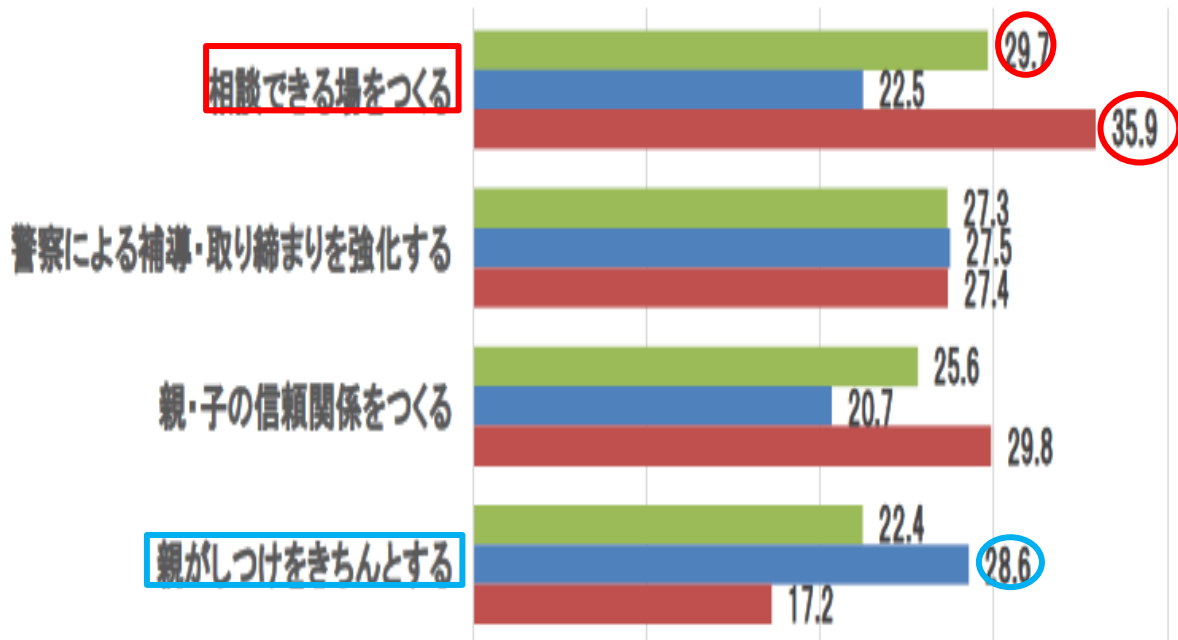
年齢層	1位 (%)	2位 (%)	3位 (%)
12歳～14歳	無意識に長時間見てしまうから 60.3	気を遣いすぎてしまうから 41.1	早く既読や返信をしなければならないと思うから 39.7
15歳～17歳	無意識に長時間見てしまうから 58.0	他人と比較して劣等感を抱くから 30.8	気を遣いすぎてしまうから 30.1
18歳～20歳	無意識に長時間見てしまうから 61.0	気を遣いすぎてしまうから 32.2	他人と比較して劣等感を抱くから 28.8
21歳～23歳	無意識に長時間見てしまうから 52.3	早く既読や返信をしなければならないと思うから 43.2	気を遣いすぎてしまうから 38.6
24歳～26歳	無意識に長時間見てしまうから 56.3	他人と比較して劣等感を抱くから 35.4	他人からの評価を気にしすぎてしまうから 33.3
27歳～30歳	無意識に長時間見てしまうから 52.4	他人と比較して劣等感を抱くから 39.0	早く既読や返信をしなければならないと思うから 25.6

SNS疲れを感じる2番目は「気を遣いすぎてしまうから」など、相手との関わりによるもので、青少年の中でも若い世代に多い。

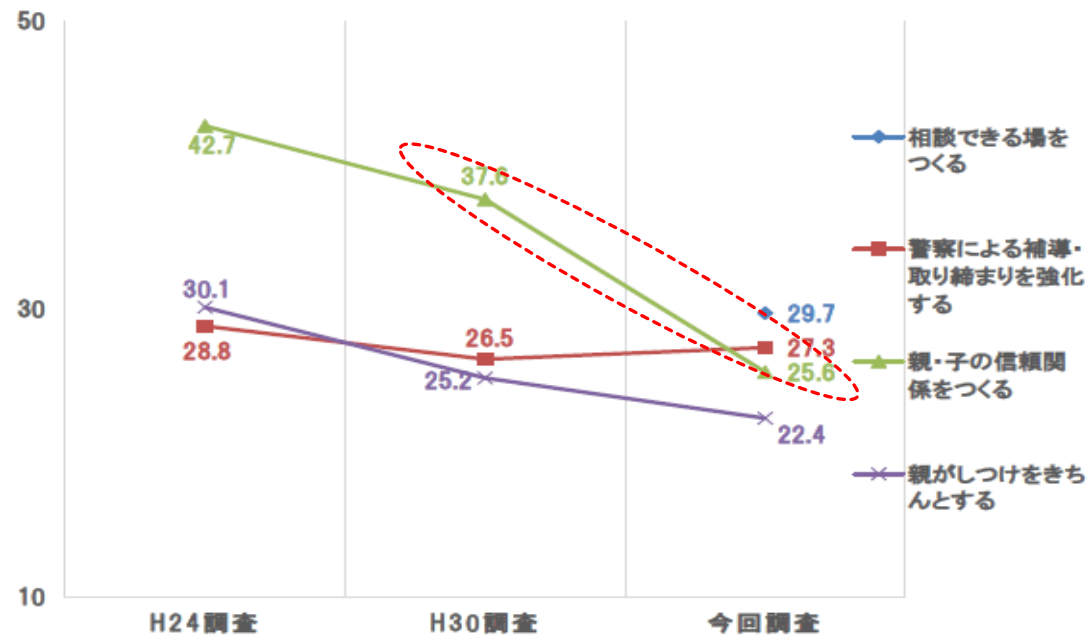
⑧ 青少年非行に 関する事項

I. 非行をなくすために何が必要か (上位4位まで)

■全体 ■男性 ■女性

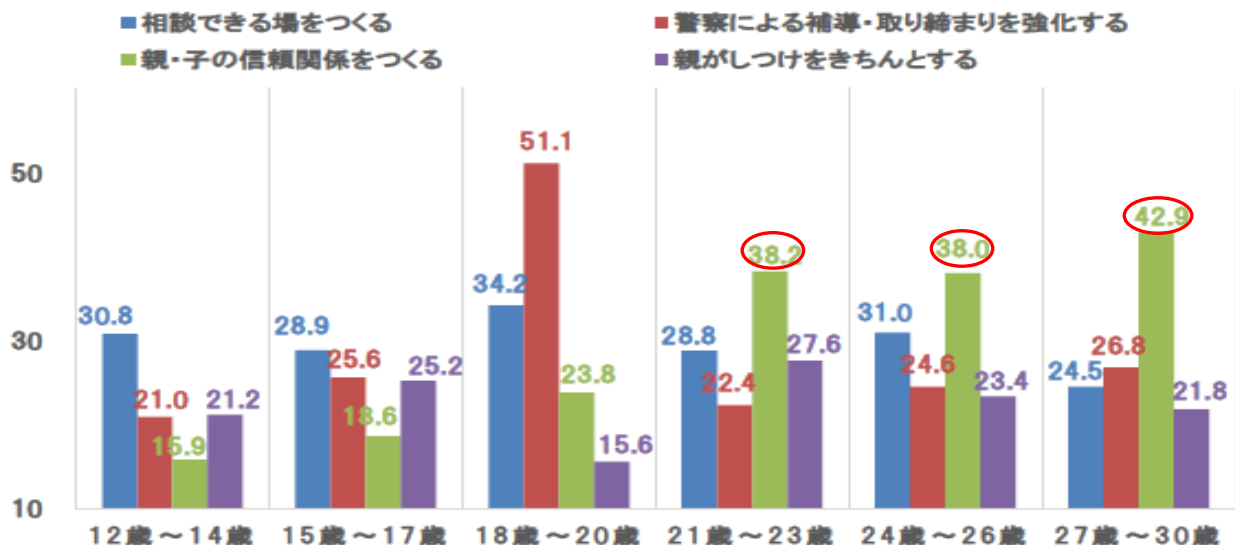


【非行をなくすために何が必要か 過去調査との比較 (上位5位まで) (単位:%)】



注) 「相談できる場をつくる」は今回調査から新たな選択肢として取り入れた。

【非行をなくすために何が必要か 年齢層別 (上位4位まで)】 (単位:%)



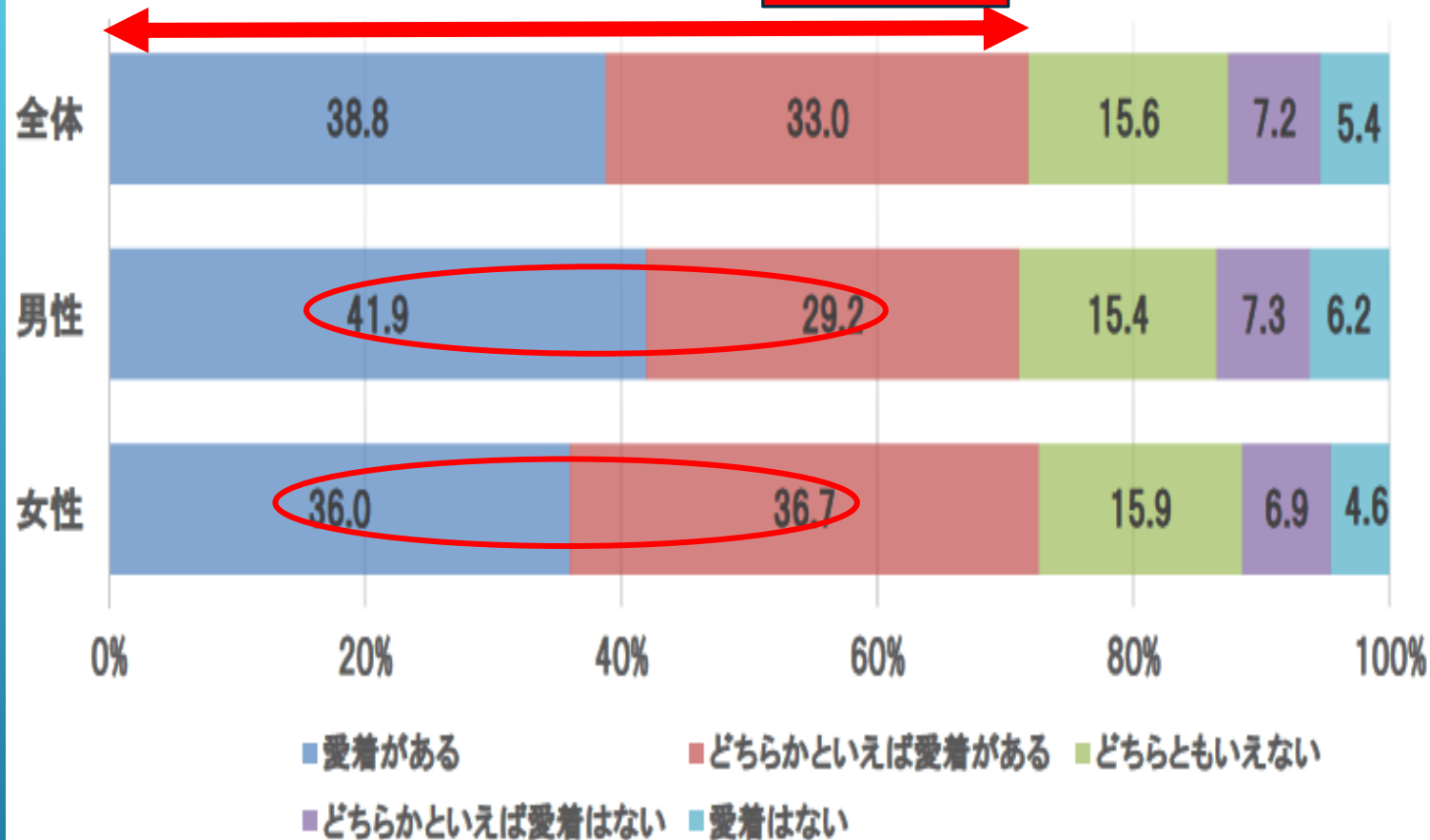
非行をなくすためには、全体と女性では「相談できる場」、男性では「親がしつけをきちんとする」ことが1番必要なことと考えている。

「親・子の信頼関係をつくる」が大幅に減少しているが、21歳～30歳の年齢層では、1番必要なことと考えている。

⑨郷土等に 関する事項

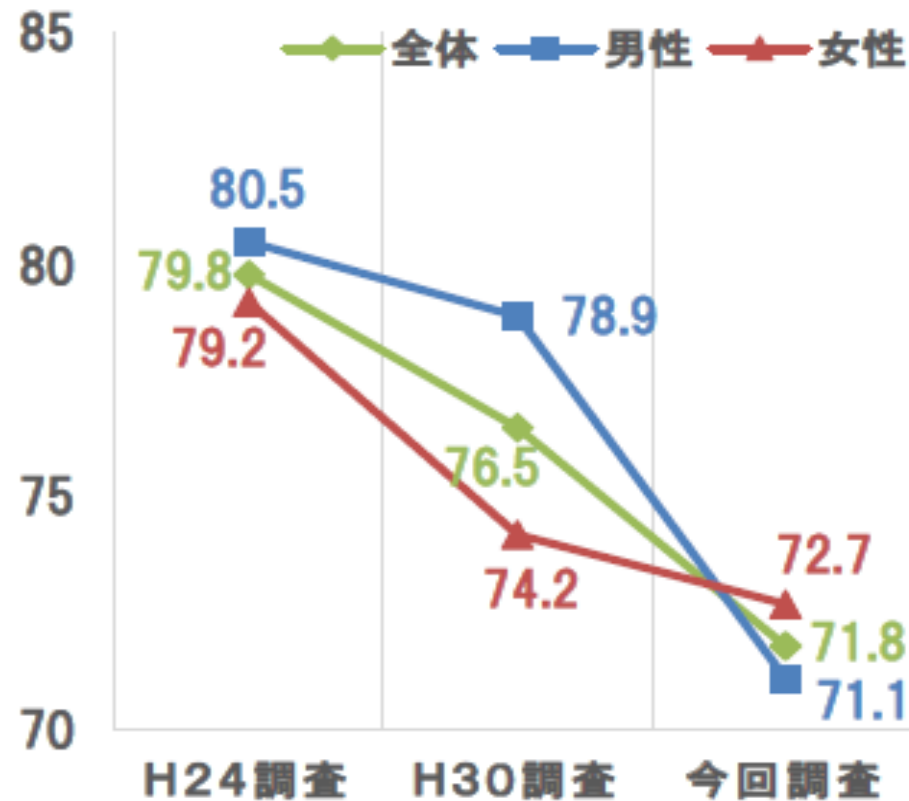
I. 今住んでいる地域に愛着を感じるか

愛着意向



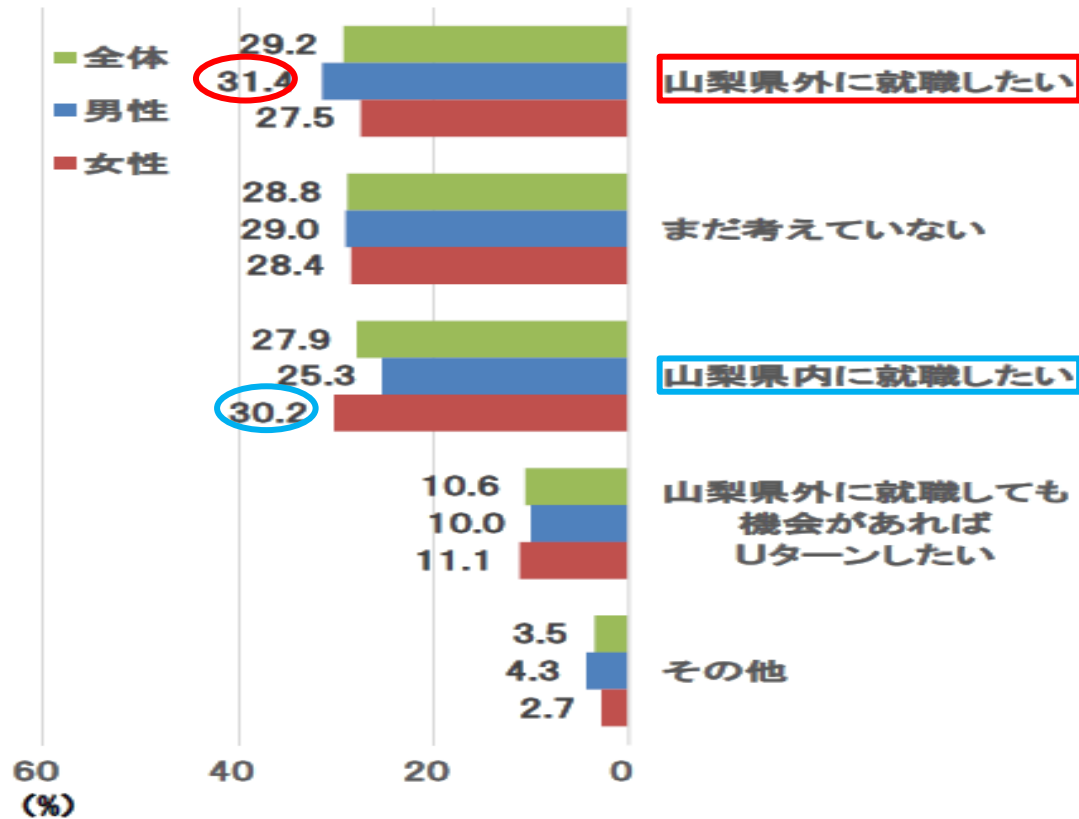
【「愛着がある意向」過去調査との比較】

(単位：%)

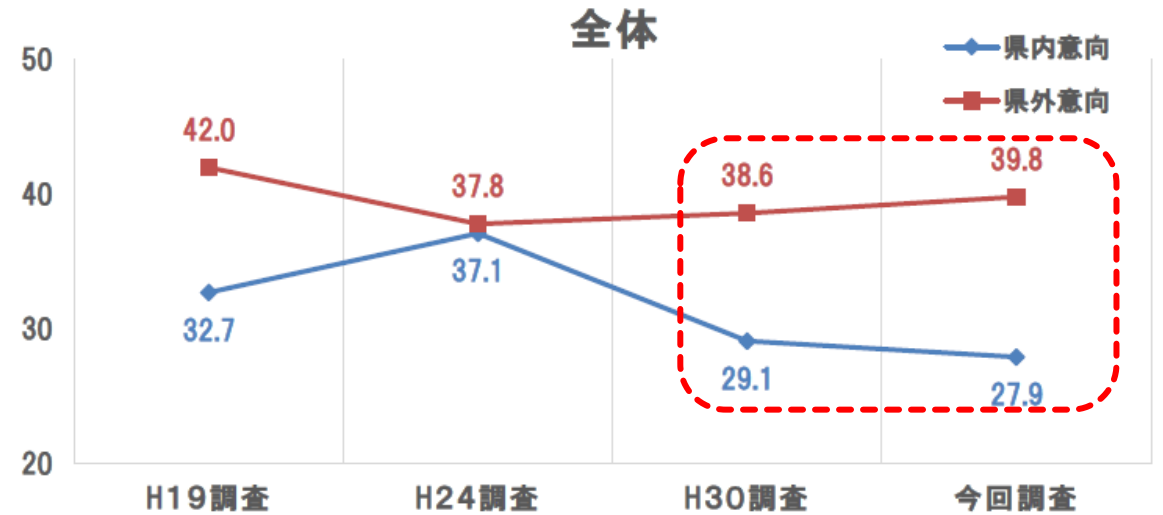


- ・ 男性よりも**女性**の方が、今住んでいる地域に**愛着を感じている**
- ・ 前回（H30）や前々回（H24）調査と比較すると、愛着意向は、男女ともに減少している

Ⅱ. 将来どこに就職したいか/山梨県外に就職したい理由



【将来どこに就職したいか「県内意向」と「県外意向」 過去調査との比較】 (単位:%)



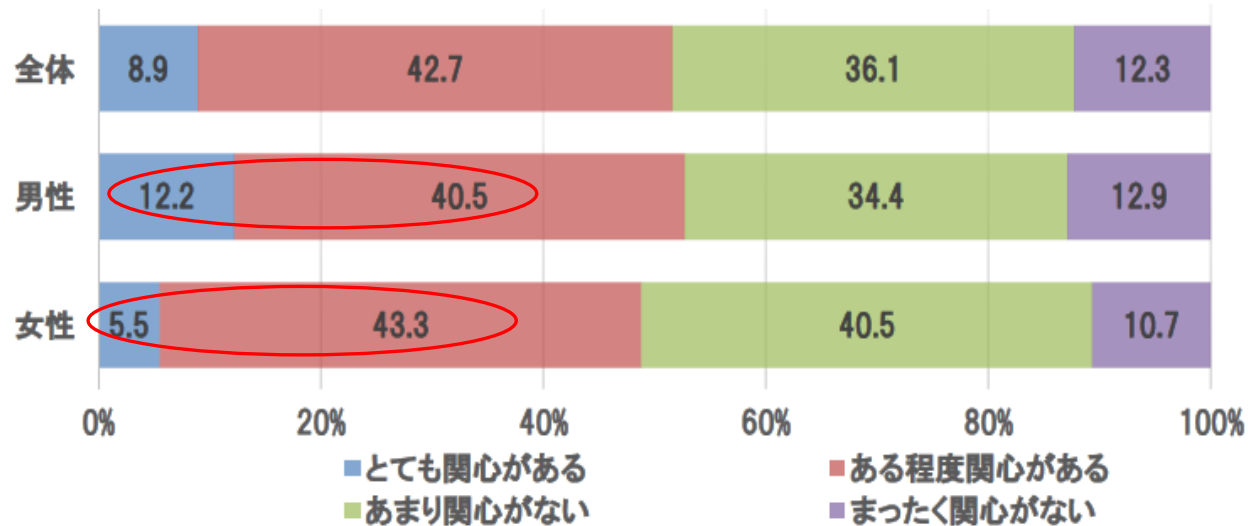
【山梨県外に就職したい理由 男女別 年齢層別】 (単位:%)

	1位	2位	3位
男性	都会の生活にあこがれている 27.4	いずれ家を出ることになる 20.3	山梨県内に就職したいが希望する就職先がない 16.6
女性	都会の生活にあこがれている 34.7	山梨県内に就職したいが希望する就職先がない 23.4	山梨県外の企業の方が就職条件がよい 16.7
12歳~14歳	都会の生活にあこがれている 36.7	いずれ家を出ることになる 21.7	山梨県内に就職したいが希望する就職先がない 15.6
15歳~17歳	都会の生活にあこがれている 32.1	いずれ家を出ることになる 20.2	山梨県内に就職したいが希望する就職先がない 19.7
18歳~20歳	山梨県外の企業の方が就職条件がよい 35.7	山梨県内に就職したいが希望する就職先がない 23.8	都会の生活にあこがれているから 14.3
21歳~23歳	山梨県内に就職したいが希望する就職先がない 34.1	山梨県外の企業の方が就職条件がよい 31.7	都会の生活にあこがれている 14.6

- ・ **男性は県外に、女性は県内に就職したいと考えている人が多い**
- ・ 前回調査（H30）よりさらに「**県内意向**」よりも、「**県外意向**」が**高まっている**
- ・ 県外就職理由は、男女ともに「**都会の生活へのあこがれ**」が多く、中学生（12歳~14歳）と高校生（15歳~17歳）でその傾向が強い

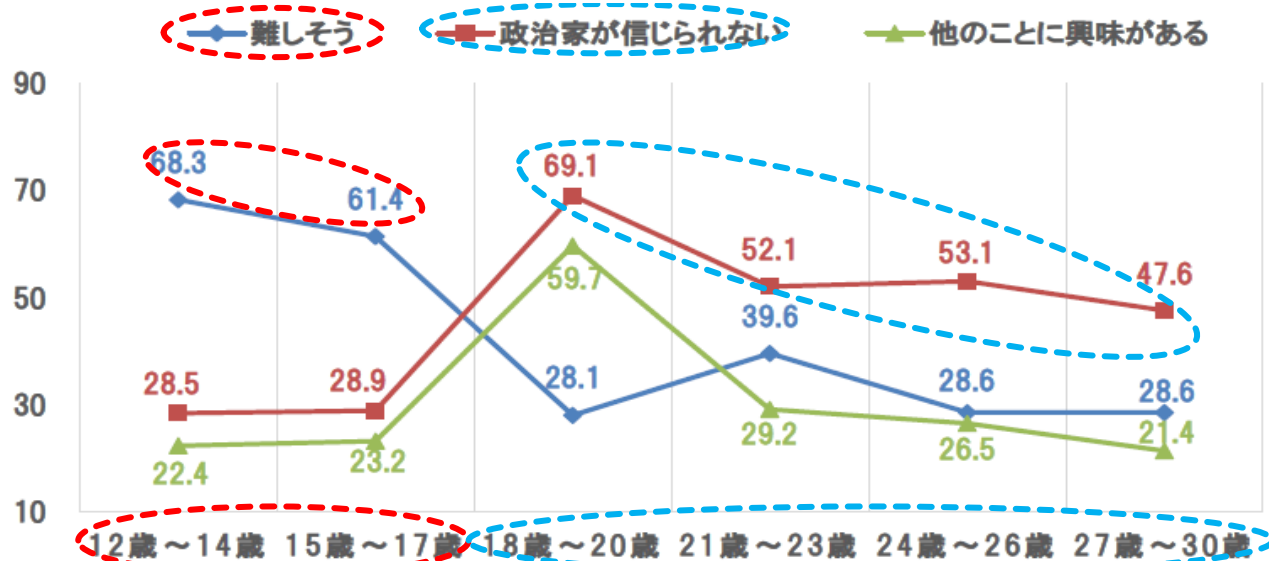
⑩ 社会参加活動に 関する事項

I. 国や地方の政治にどの程度関心があるか



- 政治への関心は、男女ともにおよそ半分の人がもっている
- 政治への関心のない理由は、中学生（12歳～14歳）と高校生（15歳～17歳）は「難しそう」、18歳～30歳は「政治家が信じられない」

II. 政治に関心のない理由は何か（上位3まで）（単位：%）



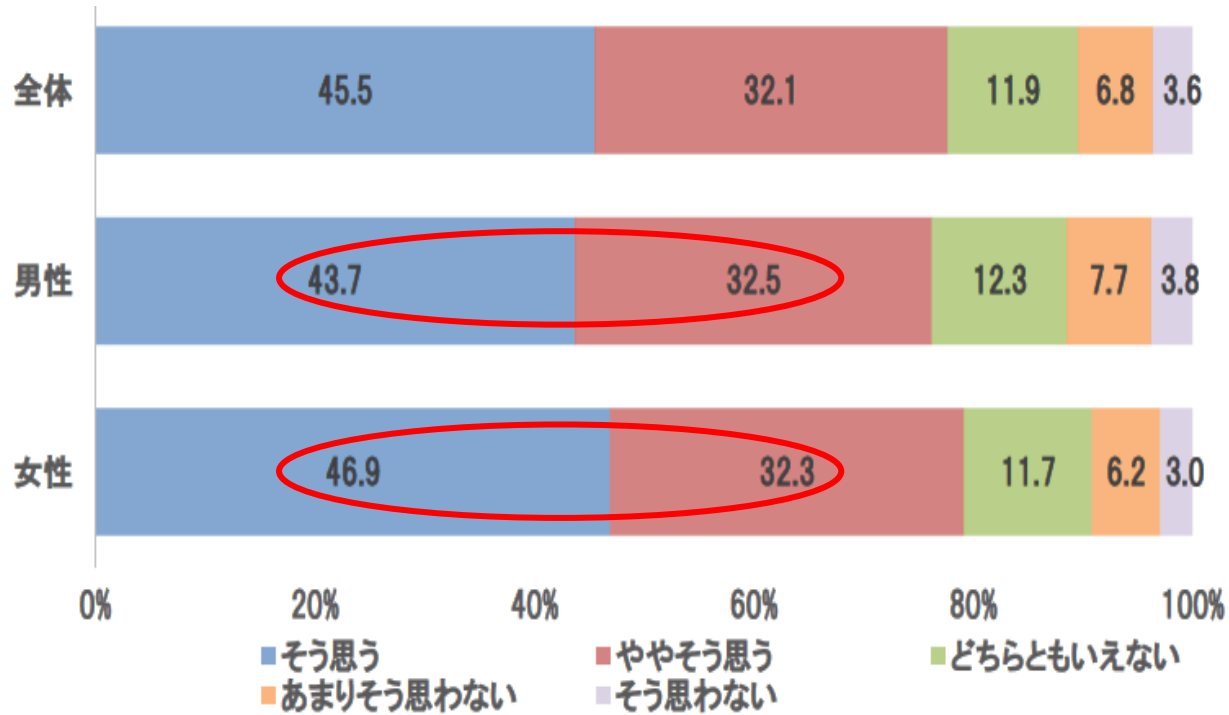
新

11

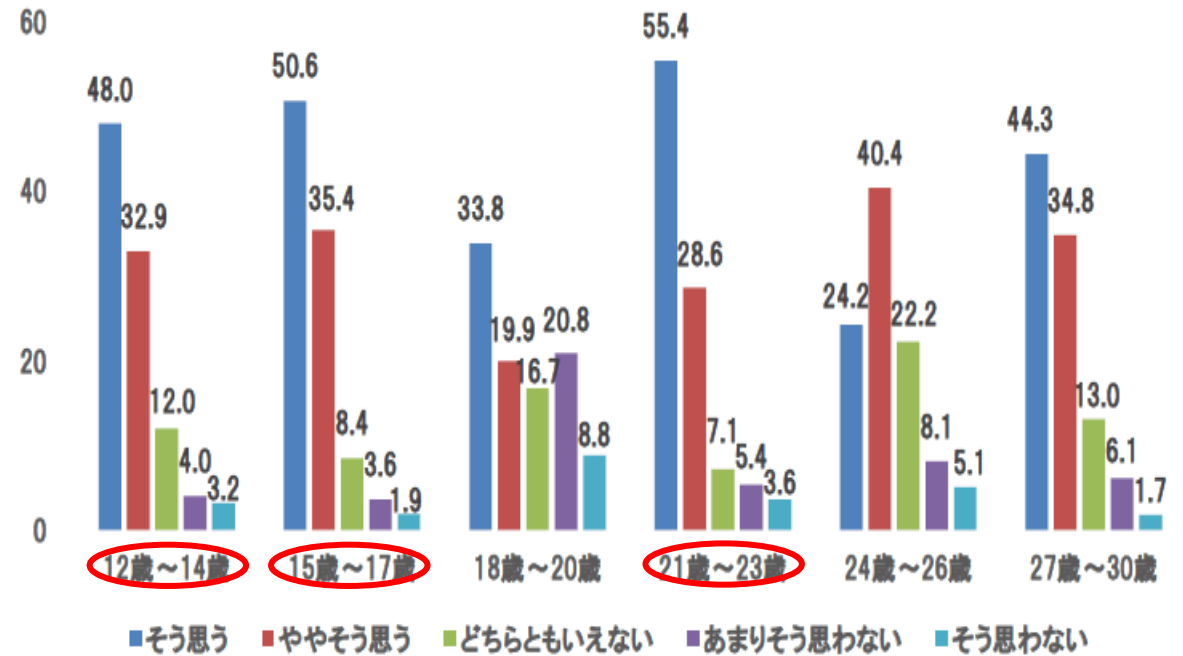
多文化共生に

関する事項

I. 文化や習慣が異なる外国の人との交流は意味があるか

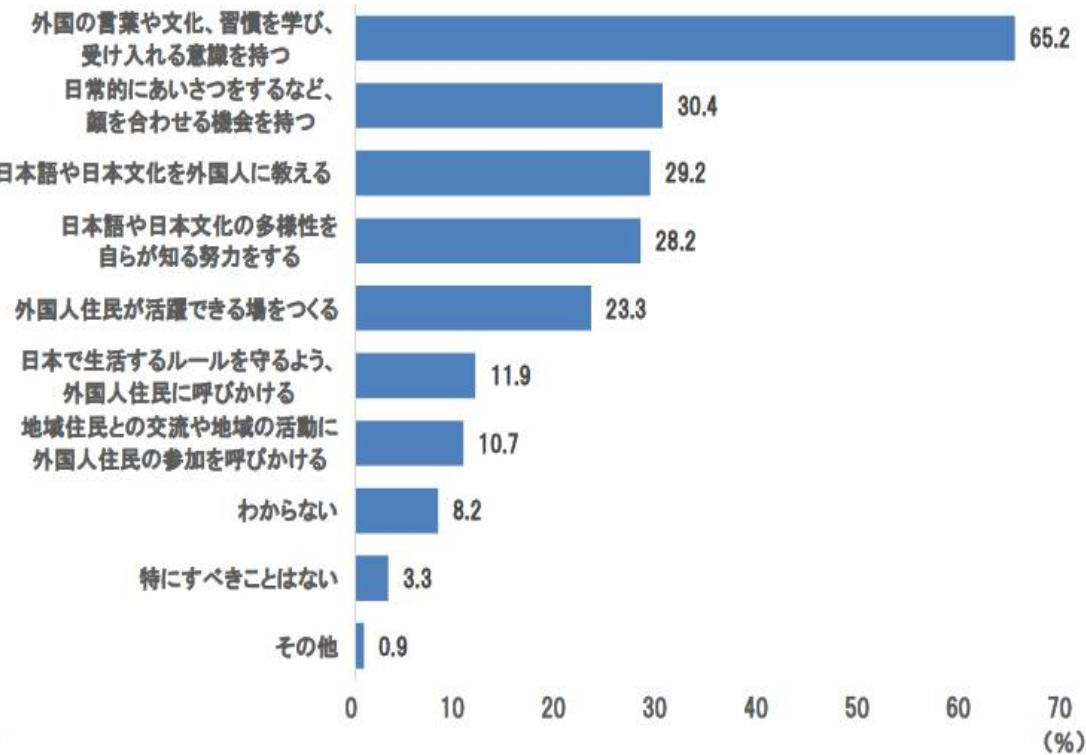


【文化や習慣が異なる外国の人との交流は意味があるか 年齢層別】 (単位: %)



- 男女ともに「文化や習慣が異なる外国の人との交流は**意味がある**」と
思っている割合は**75%以上（およそ4人に3人）**である
- 年齢層別では、中学生（12歳~14歳）と高校生（15歳~17歳）、21
歳~23歳の年齢層で意味があると思っている割合が高い

Ⅱ. 文化や習慣が異なる外国の人が共に安心して暮らせ、活躍できる地域社会にするために必要なことは何か



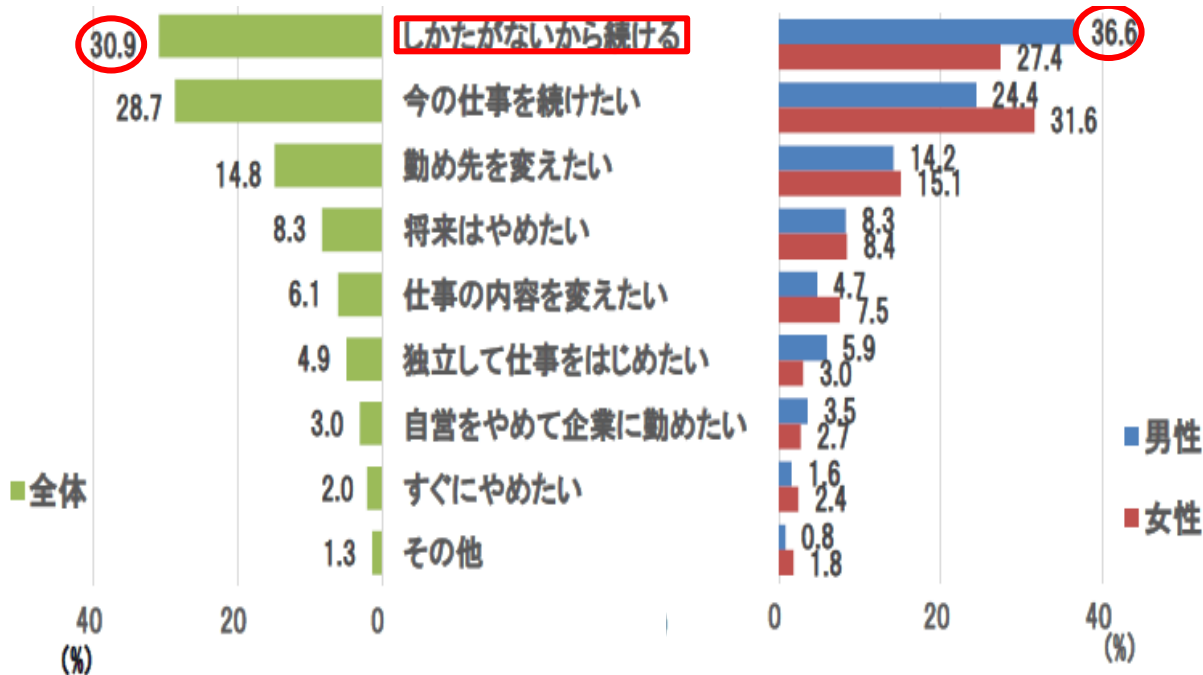
【文化や習慣が異なる外国の人が共に安心して暮らせ、活躍できる地域社会にするために必要なことは何か 男女別 年齢層別（上位3位まで）】（単位:%）

	1位	2位	3位
男性	外国の言葉や文化、習慣を学び、受け入れる 63.1	日本語や日本文化を外国人に教える 34.5	日常的にあいさつをするなど、顔を合わせる 29.2
女性	外国の言葉や文化、習慣を学び、受け入れる 67.0	日常的にあいさつをするなど、顔を合わせる 31.7	日本語や日本文化の多様性を自ら知る 27.6
12歳～14歳	外国の言葉や文化、習慣を学び、受け入れる 67.3	日本語や日本文化を外国人に教える 35.3	日常的にあいさつをするなど、顔を合わせる 31.5
15歳～17歳	外国の言葉や文化、習慣を学び、受け入れる 73.0	日常的にあいさつをするなど、顔を合わせる 32.9	日本語や日本文化の多様性を自ら知る 29.1
18歳～20歳	外国の言葉や文化、習慣を学び、受け入れる 49.5	日本語や日本文化の多様性を自ら知る 31.0	日本語や日本文化を外国人に教える 24.5
21歳～23歳	外国の言葉や文化、習慣を学び、受け入れる 60.7	日常的にあいさつをするなど、顔を合わせる 41.1	日本語や日本文化を外国人に教える 29.5
24歳～26歳	外国の言葉や文化、習慣を学び、受け入れる 53.5	日本語や日本文化の多様性を自ら知る 34.3	日本語や日本文化を外国人に教える 22.2
27歳～30歳	外国の言葉や文化、習慣を学び、受け入れる 67.0	日本語や日本文化の多様性を自ら知る 36.5	日常的にあいさつをするなど、顔を合わせる 31.3

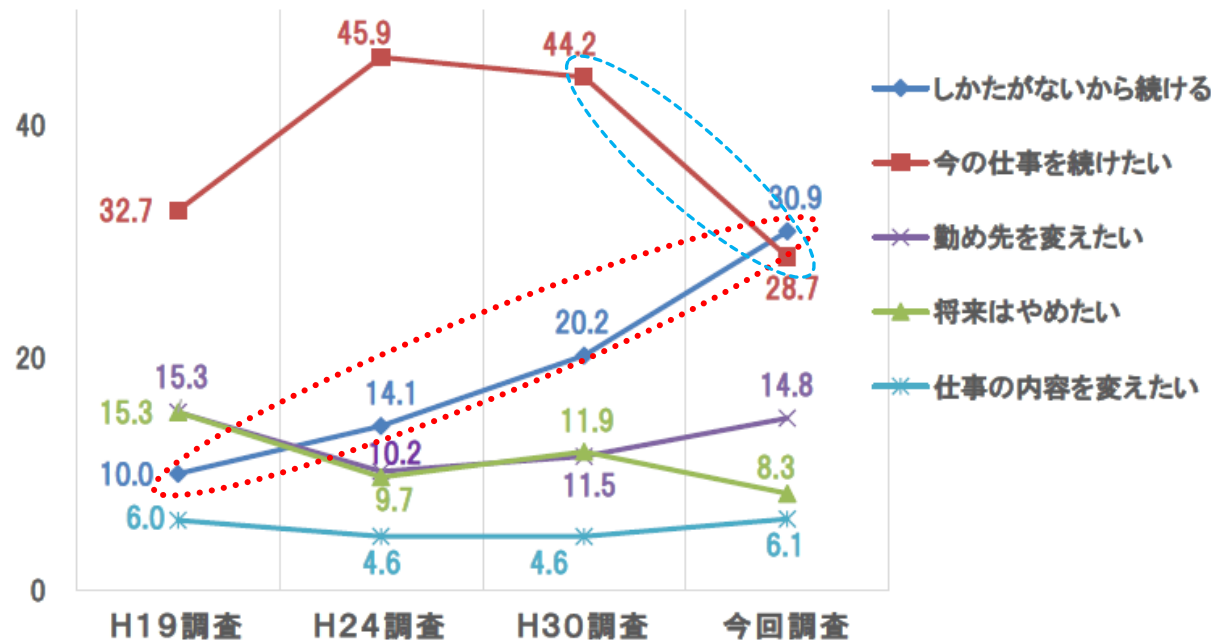
- 外国人が共に安心して暮らせ、活躍できる地域社会にするためには、（私たちが）**「外国の言葉や文化、習慣を学び、受け入れる」**ことが**1番必要なこと**であると、男女・全ての年齢層で思っている

⑫仕事に 関する事項

I. 今の仕事について、どう考えているか

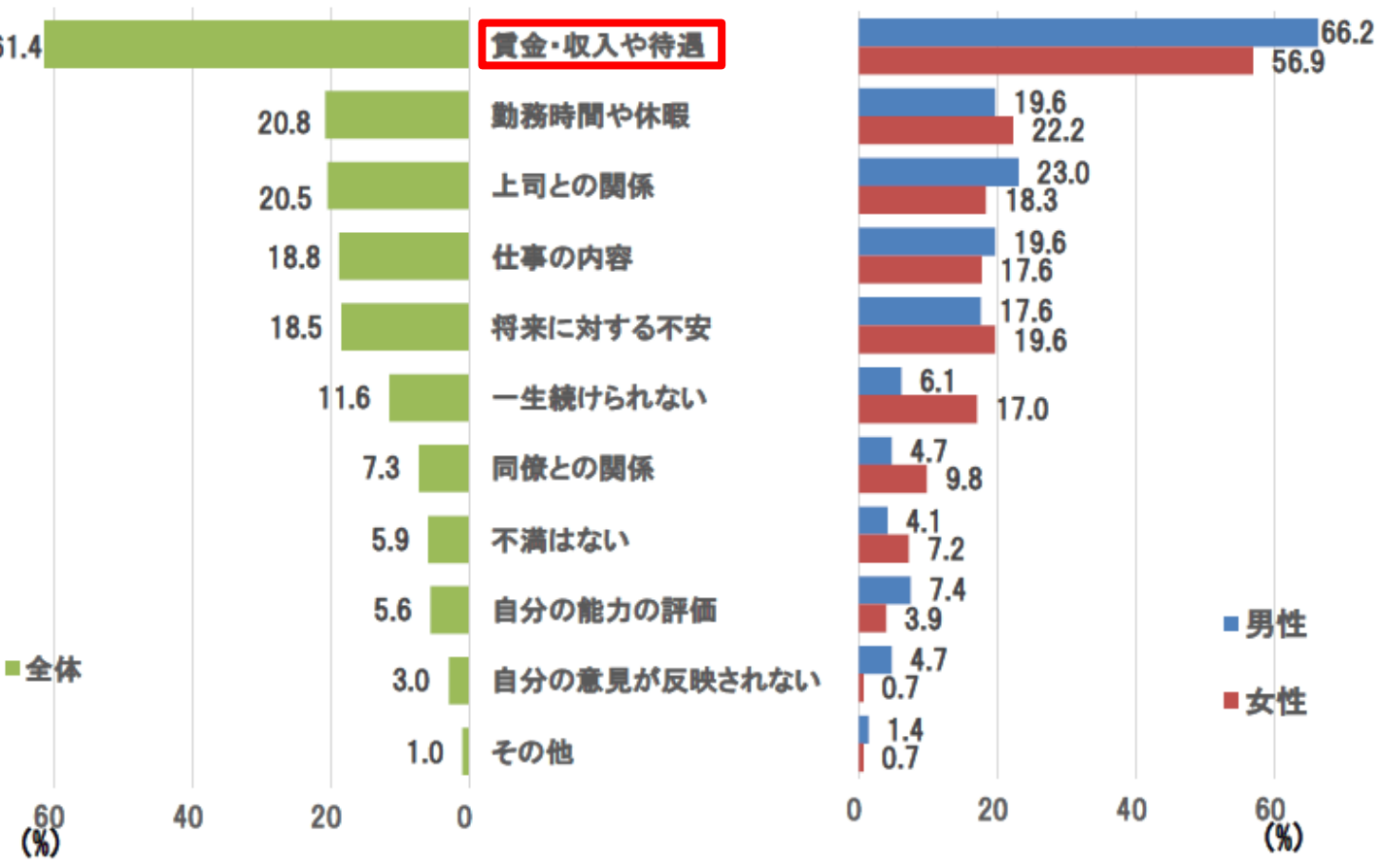


【今の仕事について、どう考えているか 過去調査との比較 全体（上位5位まで）】
(単位:%)

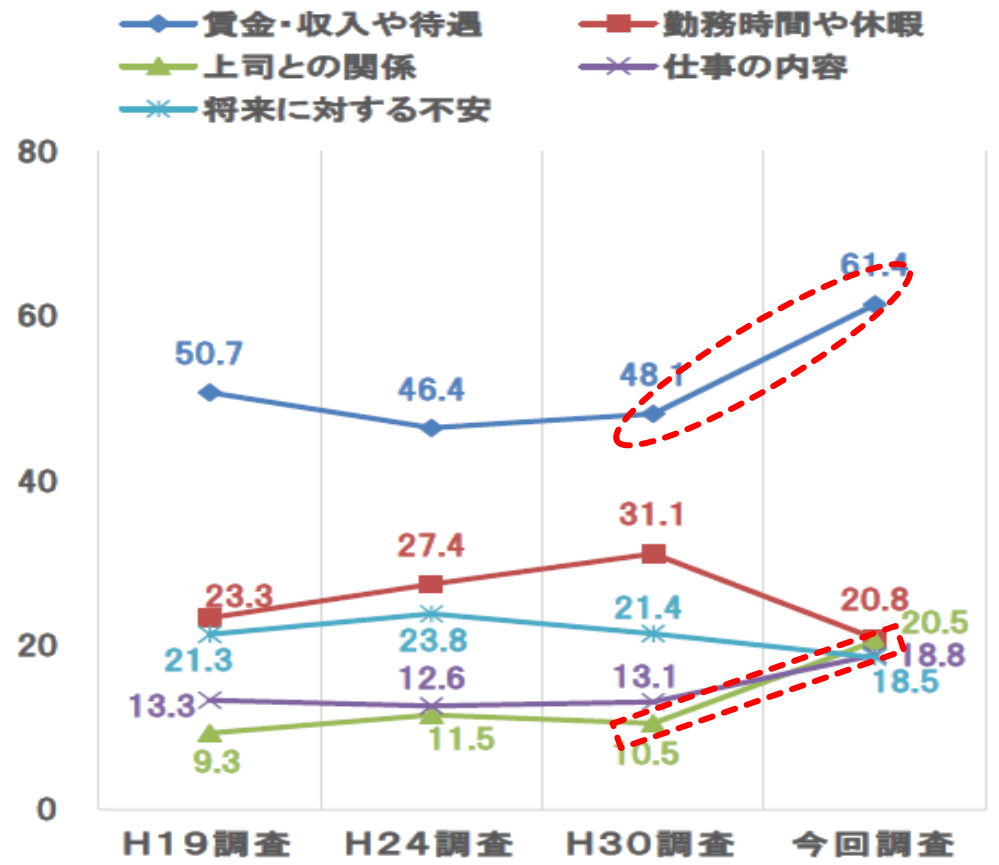


- 全体では「しかたがないから続ける」の割合が1番多い（男性も）
- 過去調査と比較すると、「しかたがないから続ける」が調査を重ねるごとに増加している
- 「今の仕事を続けたい」の割合が、前回調査から大幅に減少している

II. 今の仕事に対して不満に感じていることは何か



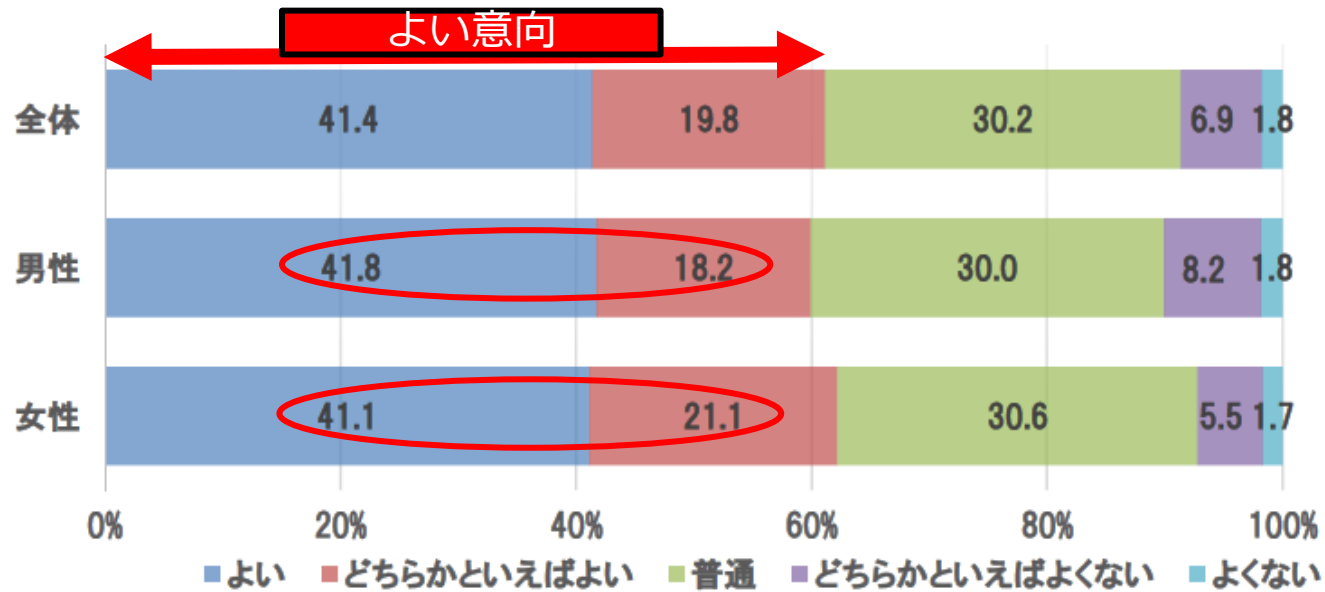
【今の仕事に対して不満に感じていることは何か 過去調査との比較 全体（上位5位まで）】（単位:%）



- 全体、男女ともに「賃金・収入や待遇」に対する不満が最も多く、前回調査と比較しても大幅に増加している
- 「上司との関係」が、過去調査と比較すると増加している

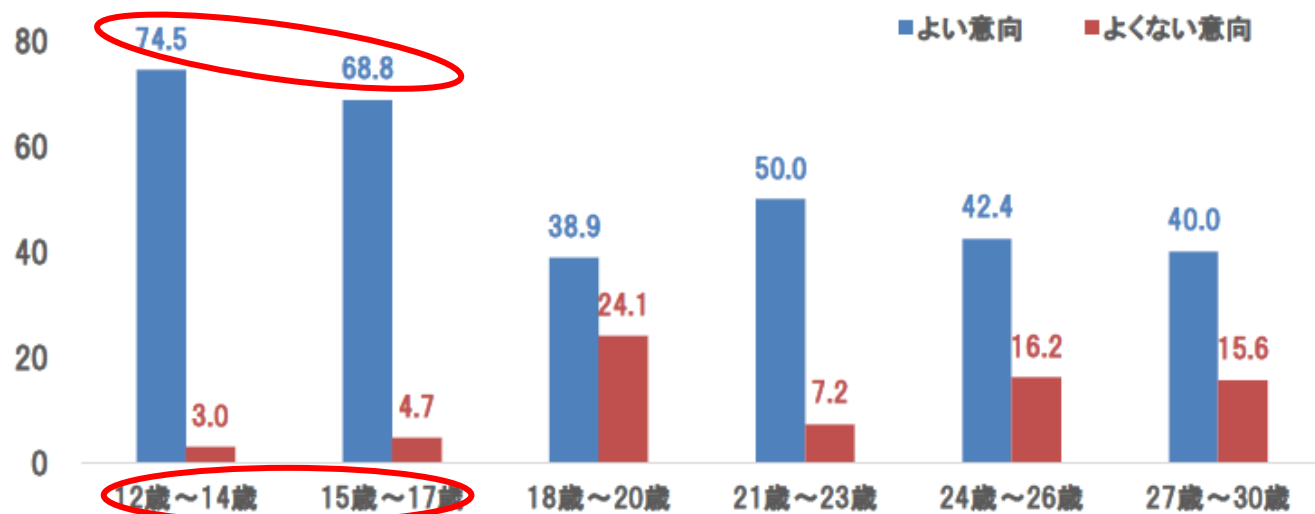
⑬ 子どもの貧困に 関する事項

I. 現在の暮らし向きは、世間一般と比べてどうか



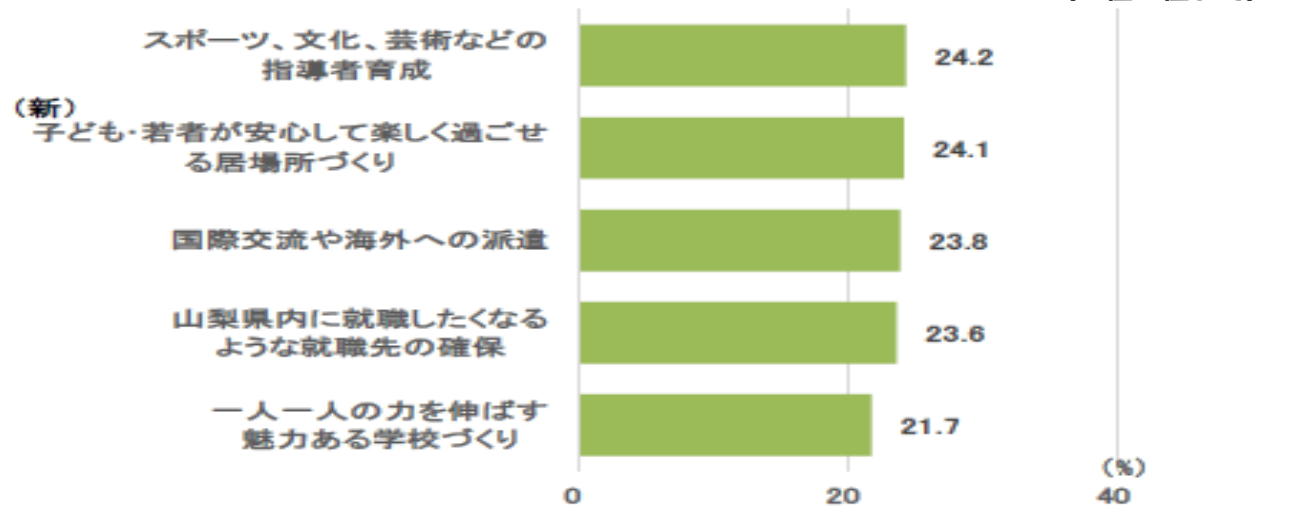
- 男女ともに、暮らし向きは「**よい意向**」と回答している割合は**60%以上**である
- 年齢層別では、**中学生や高校生の低年齢層（12歳～17歳）**が「**よい意向**」と回答している**割合が高い**

「よい意向」と「よくない意向」年齢層別



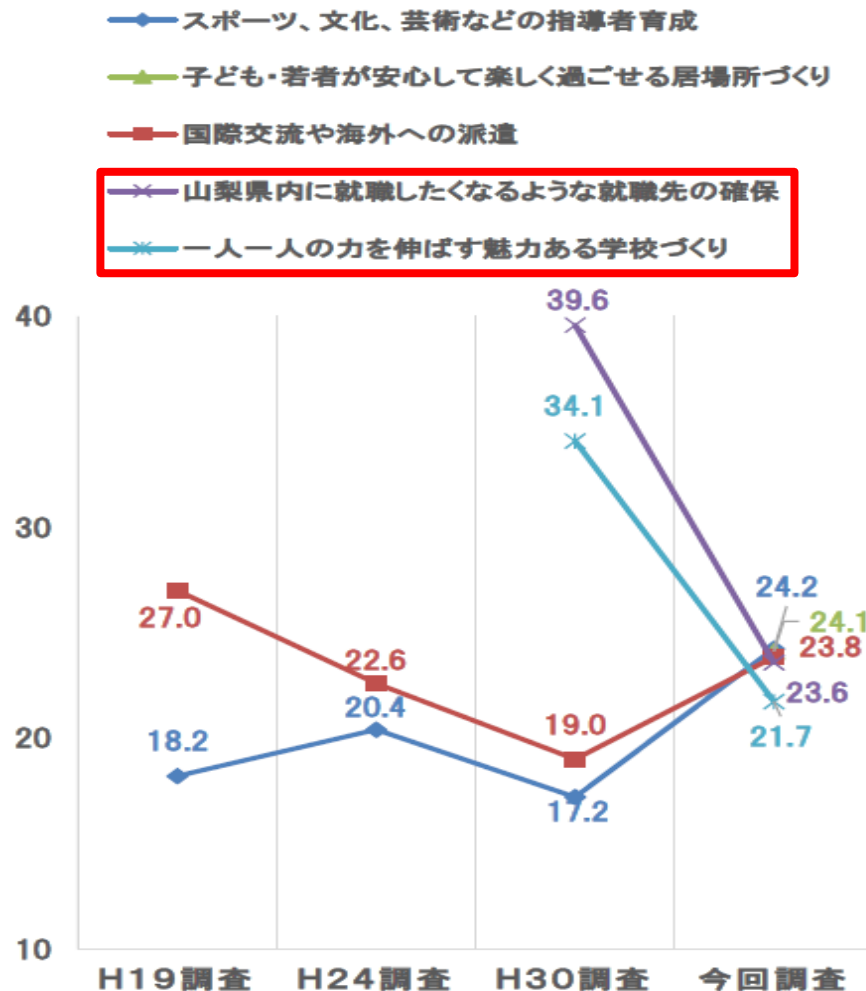
⑭ 県政に 関する事項

I. 子ども・若者の健全育成の取り組みで特に力を入れていくべきことは何か
(上位5位まで)



- ・ 「スポーツ、文化、芸術などの指導者育成」や「子ども・若者が安心して楽しく過ごせる居場所づくり」が上位だが、他との差もわずかである
- ・ 前回調査（H30）から新たに加わった「山梨県内に就職したくなるような就職先の確保」と「一人一人の力を伸ばす魅力ある学校づくり」は大幅に減少している

【子ども・若者の健全育成の取り組みで特に力を入れていくべきことは何か 過去調査との比較（上位5位まで）】（単位:%）



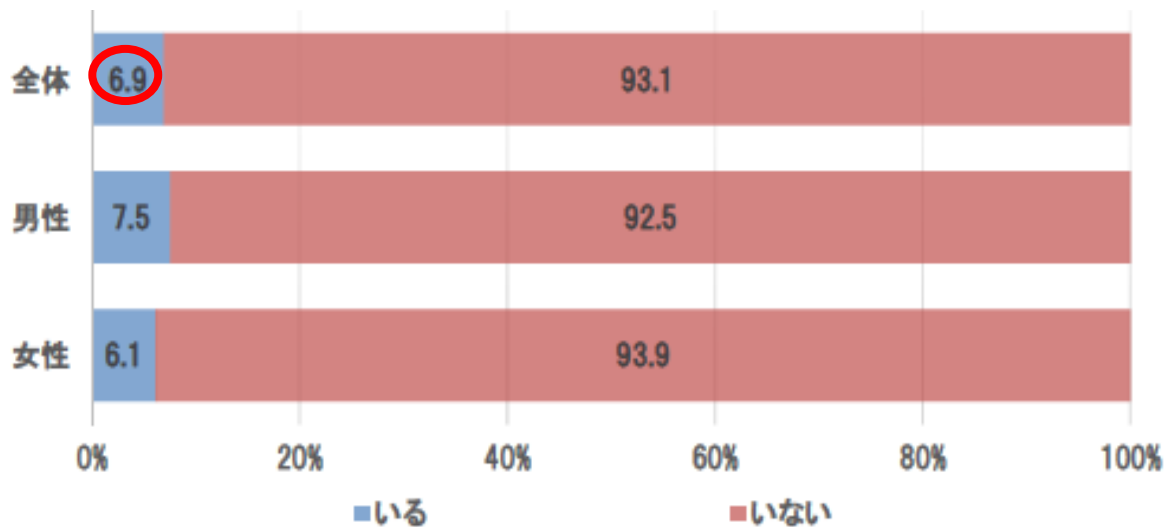
注) 「山梨県内に就職したくなるような就職先の確保」と「一人一人の力を伸ばす魅力ある学校づくり」は前回調査から、「子ども・若者が安心して楽しく過ごせる居場所づくり」は今回調査から新たな選択肢として取り入れた。

新

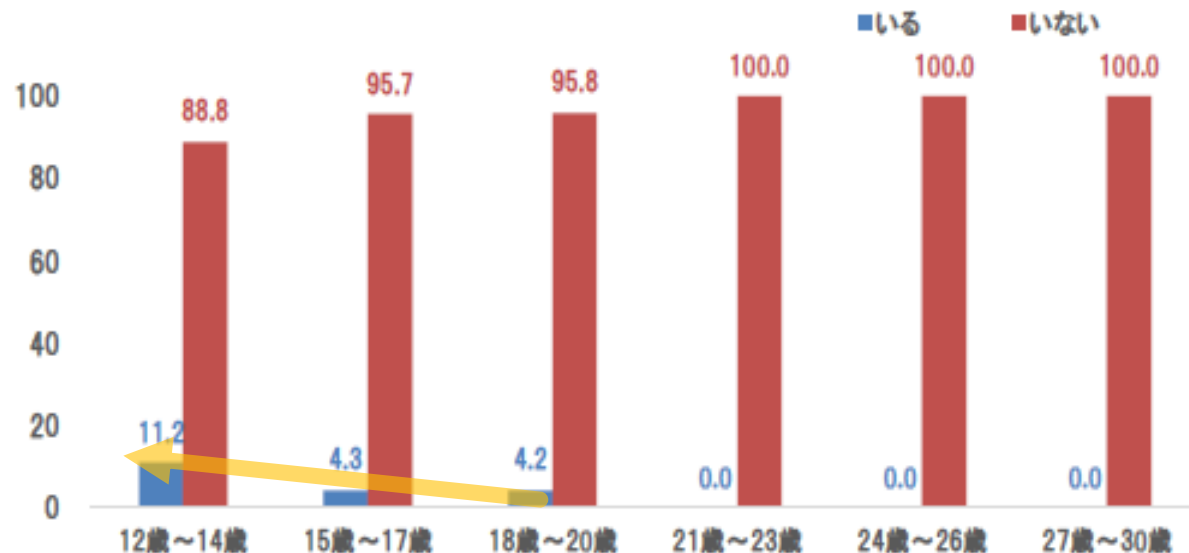
15

ヤングケアラー
に関する事項

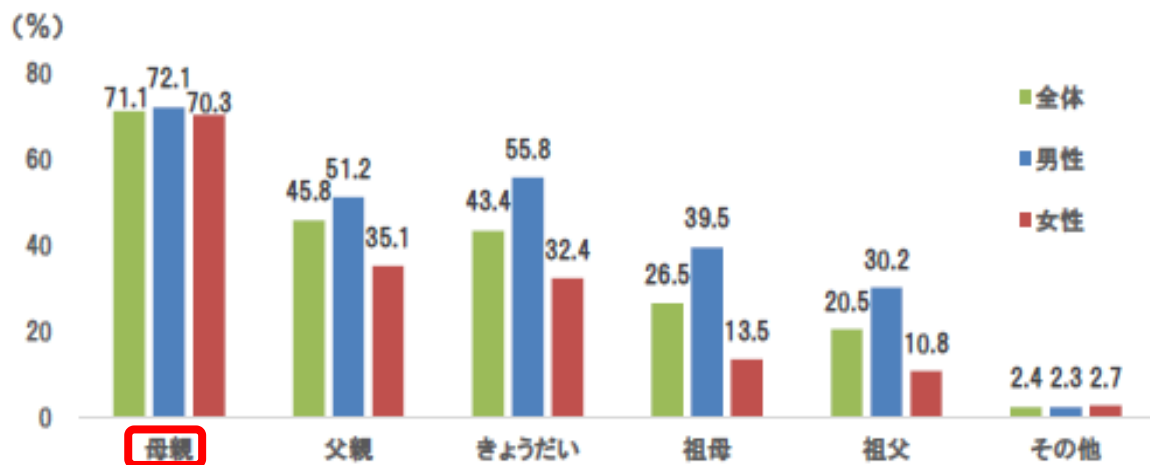
I. 家族の中にお世話をしている人はいるか



【家族の中に、お世話をしている人はいるか 年齢層別】(単位:%)

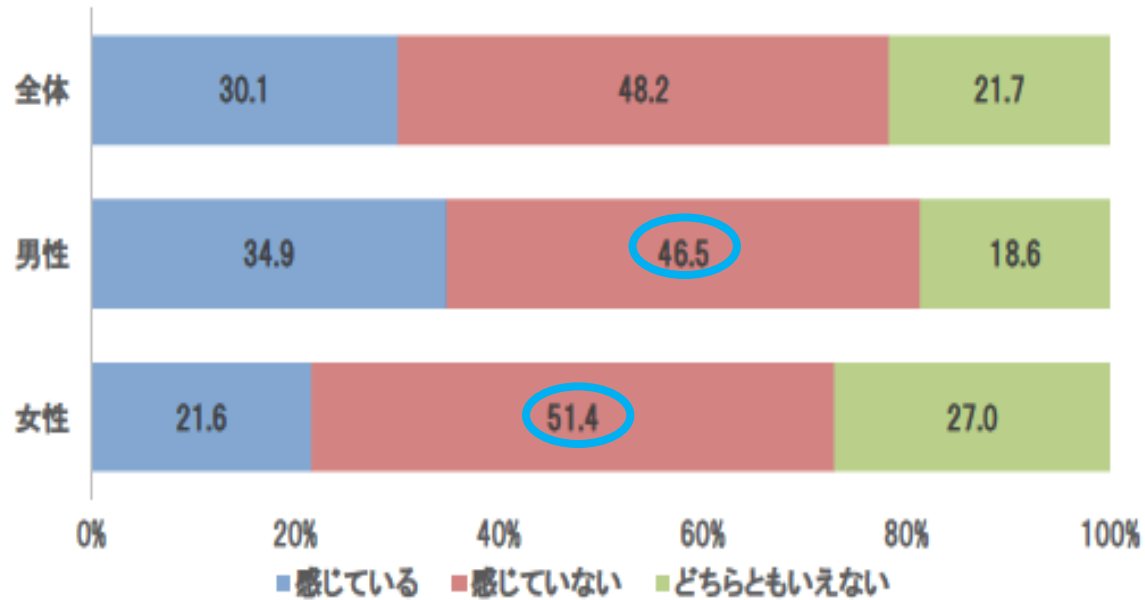


II. お世話を必要としている人はだれか

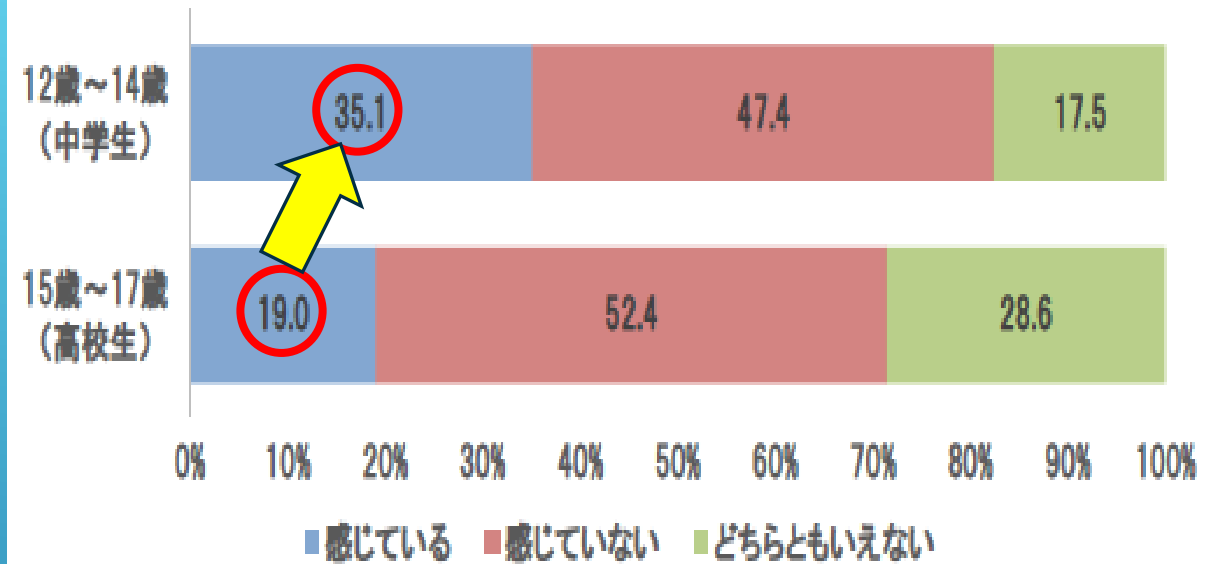


- ・ 家族の中に、お世話をしている人は全体で6.9% (およそ16人に1人)
- ・ 年齢層別では、若年層になればなるほど、お世話をしている割合は高い
- ・ お世話を必要としている人は、男女ともに「母親」が最も多い

Ⅲ. お世話をすることで負担を感じているか

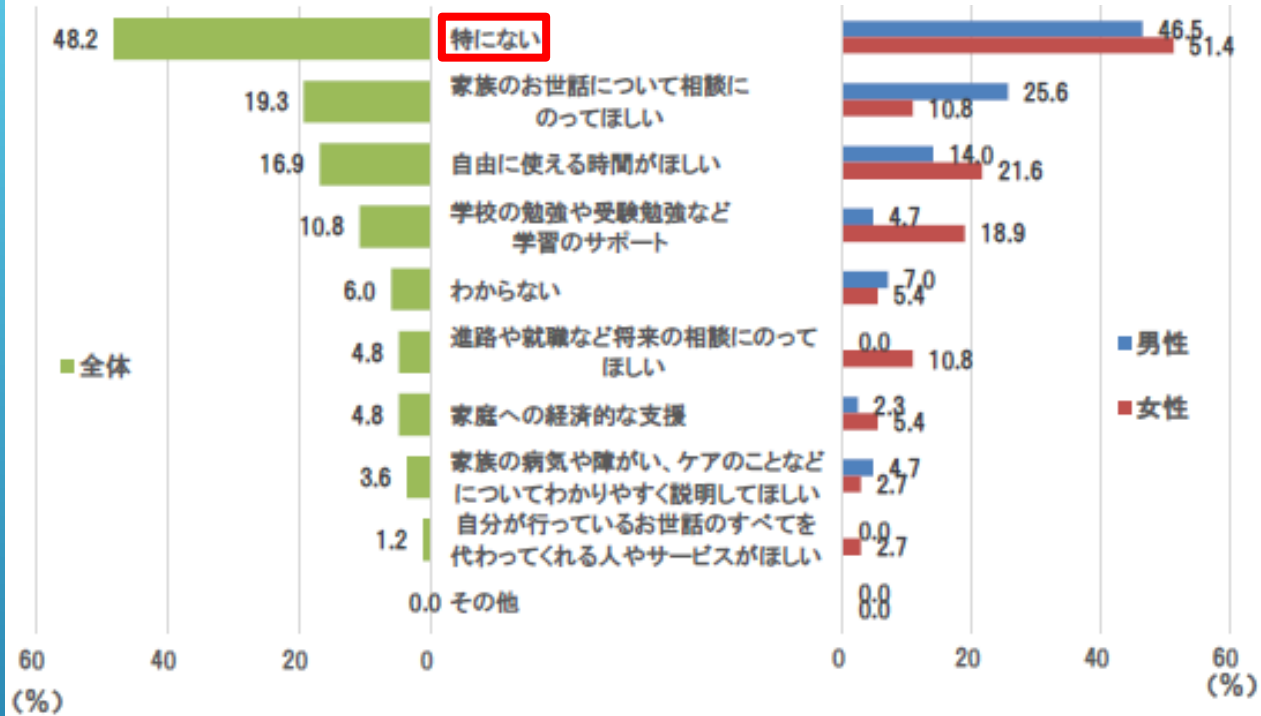


【お世話をすることで負担を感じているか 年齢層別】 (単位:%)

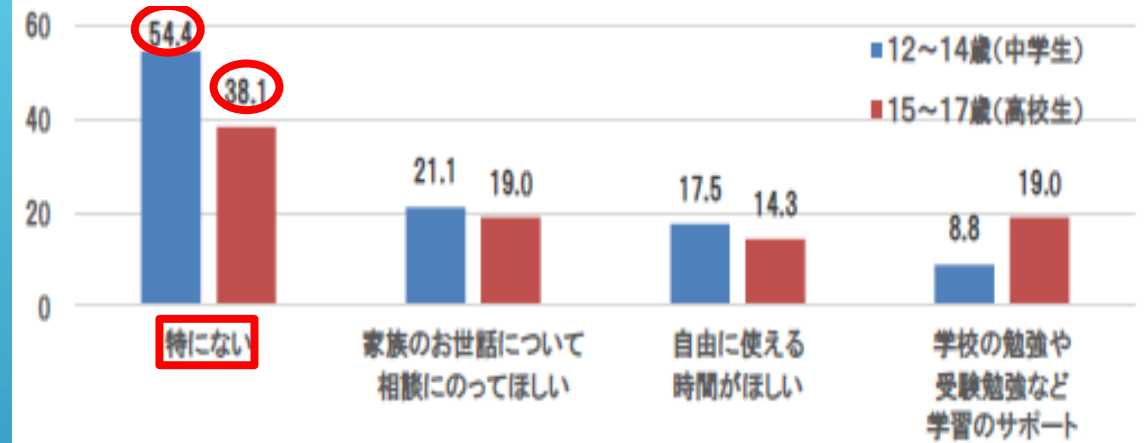


- **男女とも**にお世話をすることで負担を感じているよりも**負担を感じていない人**の方が多い
 - 年齢層が低くなるほど負担を感じている人の割合は高い
- ※負担を感じている人の割合
(中学生・・・35.1%)
(高校生・・・19.0%)

IV. 学校や周囲に助けてほしいことや、必要としている支援は何か



【学校や周囲に助けてほしいことや、必要としている支援は何か 年齢層別（上位4位まで）】（単位:%）



- ・ 「学校や周囲に助けてほしいことや、必要としている支援」は、男女ともに「特にない」の割合が**最も多い**
- ・ 「特にない」は中学生（12歳～14歳）54.4%、**高校生**（15歳～17歳）38.1%と年齢が上がるにつれ、**何かしらの支援を必要**としている（家族の世話の相談や学校の勉強・受験勉強等の学習サポート）